

2025 年度 研究所事業報告書

研究所名	人間科学研究所
------	---------

I. 研究成果の概要（公開項目） ※1ページ以内にまとめること

本欄には、研究所の実施した全ての研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどを行い、できるだけわかりやすく記述してください。

なお、2025 年度に採択を受けた研究所重点研究プログラムの詳細な実績報告は、プロジェクト毎に書式 B に記述のうえ提出してください。

1. 重点プロジェクトの推進

2025 年度も 3 つの重点プロジェクトを設定し、そのもとに 20 からなるユニットを設け、人間科学研究所の中心に据えて対人援助の研究を推進してきた。また、第 4 期研究高度化中期計画の「社会共生価値の創造」「特色ある学際共創研究と社会実装の推進」を目標に、R-GIRO 研究プログラムの研究プロジェクトとも連携を行いつつ、研究展開を行った。上記にサブ・プロジェクトとして若手研究者を主な対象とした萌芽的プロジェクト研究助成プログラムを予算拡充し実施したことで、より多彩な活動が展開された。特筆すべき成果・取り組みについては、プログラム・チーム別の詳細な実績報告、各構成メンバーの研究業績にて確認いただきたい。

2. 学術誌の刊行と研究所年次総会での研究成果の公開

- ・査読論文を中心とする『立命館人間科学研究』を 2 号とインクルーシブ社会研究(年次総会記録)を刊行した。
- ・研究所年次総会は、「集合的トラウマとしての戦争体験を未来につなぐ：平和を次世代に伝える実践から考える」をテーマに実施した。戦争体験の継承に取り組む方々を招き、活動について伺い、登壇者の実践に関する語りを通して「文化的トラウマ」と「今の日常」を結び、対人援助の未来を考える機会とした。当日は中学生の参加も見られ、若年層への働きかけにつながるテーマ設定に手ごたえを得られた。戦争トラウマの問題を今後も研究所の中心的なテーマとして取り組んでいく予定である。また、例年同様、若手研究者中心のポスターセッション(発表)も行ったが、一般参加者と発表者との交流も生まれ、例年以上の良いフィードバックが得られた。

3. 若手研究者の育成

- ・各プロジェクトを通して若手研究者主導による実験研究の促進、共同報告や共同執筆、教職協働への参画が図られた。また、国内外の学会を通じた研究発信(口頭・ポスター)、学術論文の出版(翻訳書含む)や表彰(優秀発表賞、優秀演題賞、奨励賞等)、国際会議での英語での口頭発表をするなど幅広い成果が見られた。他にも、萌芽的プロジェクトに従事した研究員が科研費の「研究活動スタート支援」や「若手研究」に申請し、採択されており、外部資金獲得に向けたスタートアップの趣旨が実を結んだ結果と言える。
- ・プロジェクトの参加学生が RARA 学生フェローや日本学術振興会特別研究員に採択され、研究職への道を模索しつつ活動を続けている。また、プロジェクトに参加していた研究員らが本学や他大学の専任教員として 25 年度より採用されている。参加メンバーの教員らが科研費、R-GIRO、RARA 等の雇用原資で雇用した RA らは 25 年度も継続して対人援助に関する学際的研究に参加し、研究所業務の補助業務を担った。上記のことから重点プロジェクトへの参加が若手研究者にとっての OJT の機会となり、育成の基盤となっていると言える。
- ・25 年度も若手研究者を所内重点・萌芽プロジェクトメンバーとし、創思館に現有するプロジェクト室を提供するなど、研究資源の配分を積極的に行うとともに、研究上の連携を奨励した。

4. その他研究の展開

- ・JST-RISTEX「SDGs の達成に向けた共創的研究開発プログラム(社会的孤立枠)」に採択された重点プロジェクトのユニット代表者ら(代表者:斎藤真緒、参加メンバー:松田亮三・矢藤優子・村本邦子・吉沅洪)が引き続き社会実装を目指し活動した。

人間科学研究科や社会学研究科の院生もメンバーとして意欲的に活動しており、キャリアパスを意識した若手研究者の育成が進んでいる。学会発表をはじめ、書籍出版、オープンセミナーを開催、大学の教養科目を開講し、プロジェクト参画者(教員や実施者)の取り組みを紹介するなど、積極的に取り組んだ。重点プログラムでの実績が着実に社会実装へと結実していると言える。

・参加メンバーが、代表者として科研費学術変革(A)に採択された。また、様々な外部資金(三菱財団社会福祉事業・研究助成、上野千鶴子基金、公益財団法人カシオ科学振興財団研究助成、法と心理学会若手研究奨励賞)や企業との共同研究費の獲得もあった。他にも各プロジェクトそれぞれにおいて、社会貢献活動やアウトリーチ活動も積極的に行われた。

・社会的要請に直接対応する事業を以下のように実施した。2023 年度に日本財団助成事業である「フォスタリングソーシャルワーク専門職講座」は終了したが、修了生に対するフォローアップ講座やその他関連事業の継続実施のため、一般社団法人 UNLEARN(代表者:中村正特任教授)に25年度も事業委託した。事業内容を紹介するWEBサイト構築、ライフストーリーワーク社会実装のための研修講座実施、脱簿力の領域拡大を目的としたニーズ調査事業、企業や学校向けの暴力防止実践プログラムの開発と実装、公開講座と連続講座の企画と開発が行われた。

II. 拠点構成員の一覧(公開項目) ※ページ数の制限は無し

本欄には、2026年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員協力研究員等の構成員を全て記載してください。区分が重複する場合は二重に記入せず、役割が上にあるものから優先し全て記載してください。また、若手研究者の条件に当てはまる場合は、若手研究者欄に記載をしてください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③大学院生、④日本学術振興会特別研究員(PD・RPD)

役割	氏名	所属	職位
研究所長	村本 邦子	人間科学研究科	教授
運営委員	若林 宏輔	総合心理学部	准教授
	松田 亮三	産業社会学部	教授
	岡田 まり	産業社会学部	教授
	石田 賀奈子	産業社会学部	教授
	斎藤 真緒	産業社会学部	教授
	稲葉 光行	政策科学部	教授
	森久 智江	法学部	教授
	中鹿 直樹	総合心理学部	教授
	土田 宣明	総合心理学部	教授
	春日 彩花	総合心理学部	助教
	サトウ タツヤ	総合心理学部	教授
	岡本 尚子	産業社会学部	准教授
	三田村 仰	総合心理学部	教授
	後藤 基行	先端総合学術研究科	准教授
	川野 健治	総合心理学部	教授
	野田 実希	総合心理学部	准教授
	矢藤 優子	総合心理学部	教授
	宇都宮 博	総合心理学部	教授
	林 勇吾	総合心理学部	教授
	川崎 聡大	産業社会学部	教授
	岡本 直子	総合心理学部	教授
	美馬 達哉	先端総合学術研究科	教授

		安田 裕子	総合心理学部	教授
		御旅屋 達	産業社会学部	教授
		松原 洋子	先端総合学術研究科	特任教授
		増田 梨花	人間科学研究科	教授
		中根 成寿	産業社会学部	教授
		柏木 智子	産業社会学部	教授
学内教員 (専任教員、研究系教員等)		早川 岳人	衣笠総合研究機構	教授
		渕野 貴生	法務研究科	教授
		高山 仁志	総合心理学部	特任助教
		斎藤 進也	映像学部	准教授
		堀江 未来	グローバル教養学部	教授
		山口 洋典	共通教育推進機構	教授
		北川 智利	BKC 総合研究機構	教授
		高橋 康介	総合心理学部	教授
		鈴木 華子	総合心理学部	教授
		和田 有史	食マネジメント学部	教授
		中田 友貴	総合心理学部	任期付教員(准教授)
		土元 哲平	OIC 総合研究機構	特別招聘研究教員(准教授)
		谷 千聖	総合心理学部	特任助教
		小國 龍治	総合心理学部	特任助教
		大谷 いづみ	衣笠総合研究機構	特別招聘教授
		川端 美季	衣笠総合研究機構	特別招聘准教授
		シン ジュヒョン	衣笠総合研究機構	助教
		孫 怡	アジア日本研究機構	研究教員
		泉 朋子	情報理工学部	教授
		西原 陽子	情報理工学部	教授
		木村 朝子	情報理工学部	教授
		柴田 史久	情報理工学部	教授
		橋口 哲志	OIC 総研	研究准教授
		森田 磨里絵	情報理工学部	助教
		山岸 典子	グローバル教養学部	教授
		中村 正	産業社会学部	特任教授
学内の若手研究者	① 専門研究員 研究員 初任研究員	廣田 貴也	OIC 総合研究機構	専門研究員
		武田 悠衣	OIC 総合研究機構	専門研究員
		河西 優	衣笠総合研究機構	研究員
		山田 早紀	衣笠総合研究機構	研究員
		安田 智博	衣笠総合研究機構	研究員
		連 傑濤	OIC 総合研究機構	専門研究員
		木村 駿斗	OIC 総合研究機構	専門研究員
		下條 志厳	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員

		安藤 雅行	グローバル・イノベーション研究 機構	専門研究員
	② リサーチアシスタント	湯谷 菜王子	人間科学研究所	博士課程後期課程
		安陪 梨沙	人間科学研究科	博士課程後期課程
		LI ZIMING	人間科学研究科	博士課程後期課程
		渡邊 咲花	人間科学研究科	博士課程後期課程
	③ 大学院生	LIU ZEYU	人間科学研究科	博士課程後期課程
		水野 亮太	人間科学研究科	博士課程後期課程
		宮宇地 雄介	社会学研究科	博士課程後期課程
		橋詰 幸輝	社会学研究科	博士課程後期課程
		小池 由佳	社会学研究科	博士課程後期課程
		徳竹 綾香	立命館大学社会学研究科	博士課程後期課程
		辻 いづみ	人間科学研究科	博士課程後期課程
		戸名 久美子	人間科学研究科	博士課程後期課程
		安井 美鈴	人間科学研究科	博士課程後期課程
		河上 実樹	人間科学研究科	博士課程後期課程
		福山 未智	人間科学研究科	博士課程後期課程
		杉本 菜月	人間科学研究科	博士課程後期課程
		華 徐珍	人間科学研究科	博士課程後期課程
		長谷川 綾音	人間科学研究科	博士課程後期課程
		Liu Cheng (劉 丞)	人間科学研究科	博士課程後期課程
		樋口 穂乃佳	人間科学研究科	博士課程後期課程
		宮内 沙也佳	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		高 雅郁	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		ユ ジンギョン	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		種村 光太郎	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		中井 良平	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		河野 暁子	人間科学研究科	博士課程後期課程
		松尾 光代	人間科学研究科	博士課程後期課程
		WANG Ting	人間科学研究科	博士課程後期課程
		TANG Shijia	人間科学研究科	博士課程後期課程
		WANG Yiyuan	人間科学研究科	博士課程後期課程
		ZHANG,Mengting	人間科学研究科	博士課程後期課程
		井上 順	人間科学研究科	博士課程後期課程
		古西 隆之	社会学研究科	博士課程後期課程
		善本 悠介	人間科学研究科	博士課程後期課程
		銭 宝怡	人間科学研究科	博士課程後期課程
		キョク コウリン	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		田中 美穂	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		川崎 雅貴	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		船曳 美千子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		忠岡 経子	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
		コウ キョウ	社会学研究科	博士課程前期課程

	田口 琳	人間科学研究科	博士課程前期課程
	秋野 光城	人間科学研究科	博士課程前期課程
	河村 太志朗	社会学研究科	博士課程前期課程
	許 英瑞	社会学研究科	博士課程前期課程
	古谷 友亮	社会学研究科	博士課程前期課程
	太田 光美	人間科学研究科	博士課程前期課程
	岸本 祥歩	人間科学研究科	博士課程前期課程
	高坂 めぐみ	人間科学研究科	博士課程前期課程
	濱 美乃里	人間科学研究科	博士課程前期課程
	中北 千景	人間科学研究科	博士課程前期課程
	生川 美桜	人間科学研究科	博士課程前期課程
	秋口 楓	人間科学研究科	博士課程前期課程
	中野 紗希	人間科学研究科	博士課程前期課程
	工藤 愛弓	人間科学研究科	博士課程前期課程
	辻 絢加	人間科学研究科	博士課程前期課程
	安井 琴音	人間科学研究科	博士課程前期課程
	三日月 礼乃	人間科学研究科	博士課程前期課程
	岡本 真侑	人間科学研究科	博士課程前期課程
	田場 太基	先端総合学術研究科	一貫制博士課程
	橋本 光理	人間科学研究科	博士課程前期課程
	稲嶺 美祈	人間科学研究科	博士課程前期課程
	中山 佐代	人間科学研究科	博士課程前期課程
	高田 すず	人間科学研究科	博士課程前期課程
	WEN Xiaohan	人間科学研究科	博士課程前期課程
	関川 雄大	人間科学研究科	博士課程前期課程
	大麻 紀真	人間科学研究科	博士課程前期課程
	北村 満	社会学研究科	博士課程前期課程
	野本 晴登	情報理工学研究科	博士課程前期課程
	堀 丈太郎	情報理工学研究科	博士課程前期課程
	渡邊 知朗	情報理工学研究科	博士課程前期課程
	渡邊 香果	人間科学研究科	博士課程前期課程
	久原 璃子	人間科学研究科	博士課程前期課程
	大西 麻佑奈	情報理工学部	博士課程前期課程
	高永 侑輝	情報理工学部	博士課程前期課程
	田辺 隼人	情報理工学部	博士課程前期課程
	伝 真実	情報理工学部	博士課程前期課程
	宮田 来輝	情報理工学部	博士課程前期課程
	山田 直樹	情報理工学部	博士課程前期課程
	北浦 悠佑	情報理工学部	博士課程前期課程
	平井 陽香	情報理工学部	博士課程前期課程
	秋葉 直人	情報理工学部	博士課程前期課程
	池田 滉成	情報理工学部	博士課程前期課程
	黒瀬 佳那	情報理工学部	博士課程前期課程

		杉江 謙	情報理工学部	博士課程前期課程
		服部 圭吾	情報理工学部	博士課程前期課程
		廣末 裕太	情報理工学部	博士課程前期課程
		宮内 陽太	情報理工学部	博士課程前期課程
		李 天添	情報理工学部	博士課程前期課程
		小島 夏美	情報理工学部	博士課程前期課程
		坂口 達哉	情報理工学部	博士課程前期課程
		廣田 和輝	情報理工学部	博士課程前期課程
	④ 日本学術振興会特別 研究員 (PD・RPD)	張 瑜淳	京都大学大学院文学研究科	DC1
		後藤 健志	衣笠総合研究機構	学振 RPD
その他の <u>学内者</u> (補助研究員、非常勤講師、研究 生、研修生等)		伊藤 保子	立命館大学社会学研究科	研修生
		武石 卓也	衣笠総合研究機構	補助研究員
		和田 千鶴	総合心理学部	4 回生
		今井 紀子	総合心理学部	2 回生
		田中 淳子	総合心理学部	2 回生
		辻 和香	総合心理学部	2 回生
		水月 昭道	総合心理学部	訪問教授
		坂井 めぐみ	先端研修了生／産業社会学部他	授業担当講師
		安 孝淑	先端研修了生／韓国 ALS 協会	理事(企画ディレク ター)
		田中 秀典	社会学研究科／京都文教短期大 学	研修生／特任講師
		河村 竜幸	立命館グローバル・イノベーション 研究機構	補助研究員
		久保田 翔帆	情報理工学部	4回生
		小西 真結	情報理工学部	4回生
		長 張快	情報理工学部	4回生
		前野 佑太朗	情報理工学部	4回生
		山下 健吾	情報理工学部	4回生
		渡邊 出琉	情報理工学部	4回生
客員協力研究員		松島 京	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 相愛大学人間発達 学部・教授
		村上 慎司	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 金沢大学人間社会 研究域経済学経営 学系・講師
		棟居 徳子	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 早稲田大学社会科 学総合学術院・教 授
		高山 一夫	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 京都橘大学経済学 部・教授
		西沢 いづみ	衣笠総合研究機構 地域健康社会学研究センター	客員研究員

	江頭 典江	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員
	金森 京子	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 聖泉大学特任准教 授・助産師
	木内 さくら	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 京都文教短期大 学・特任講師
	松元 祐	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 日本福祉大学 教 育・心理学部こども 学科・講師
	浜田 寿美男	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	上席研究員
	平岡 義博	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	上席研究員
	笹倉 佳奈	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 甲南大学・教授
	山崎 優子	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 駿河台大学・准教 授
	土田 菜穂	OIC 総合研究機構	客員研究員 京都市立北総合支 援学校
	高橋 伸子	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員
	石川 眞理子	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員
	孫 琴	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員
	宮川 法子	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員
	安田 祥子	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 同志社女子大学ス チューデントサポ ートセンター
	渡邊 絵里香	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 大阪大学職員
	南 博文	OIC 総合研究機構	上席研究員 筑紫女学園大学学 長
	川本 静香	OIC 総合研究機構	客員研究員 京都精華大学准教 授
	山崎 まどか	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 高知学園大学健康 科学部臨床検査学 科・准教授
	オイゲン・コウ	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 セント・ヴィンセント 病院・精神科医
	木内 敬太	立命館グローバル・イノベーション 研究機構	客員研究員
	片岡 佑太	OIC 総合研究機構	客員研究員
	濱田 大佐	立命館グローバル・イノベーション 研究機構	客員研究員

	王 凱	立命館グローバル・イノベーション研究機構	客員研究員
	藤田 義彦	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 藤田法科学研究所 所長
	村山 満明	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 慈恵中央病院・心理士
	井上 智恵	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 立命館大学大学院・非常勤講師
	大橋 喜美子	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 総合学園ヒューマンアカデミー大阪校こども保育専攻・非常勤講師
	大野 静代	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 男性介護者と支援者の全国ネットワーク 事務局
	大原 ゆい	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 大谷大学社会学部・准教授
	津止 正敏	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 男性介護者と支援者の全国ネットワーク 事務局
	手島 洋	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 県立広島大学保健福祉学部・専任講師
	西田 朗子	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 男性介護者と支援者の全国ネットワーク事務局
	竹内 謙彰	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 佛教大学非常勤講師
	鈴木 祐子	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員
	亀山 裕樹	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 大谷大学社会学部助教
	深川 望	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 佛教大学非常勤講師
	荒木 晃子	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員
	徳永 祥子	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 セラピューティックライフストーリーワークジャパン・代表
	中西 真	衣笠総合研究機構人間科学研究所	客員研究員 武蔵野大学人間科学部・准教授

	西井 開	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 立教大学・特任准 教授
	由井 秀樹	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 山梨大学大学院附 属出生コホート研 究センター・特任助 教
	村本 詔司	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員
	我藤 諭	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 龍谷大学・非常勤 講師
	三品 拓人	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員 筑波大学人文社会 系・ITF 助教
	對梨 成一	衣笠総合研究機構人間科学研究 所	客員研究員
	Peg Barratt	OIC 総合研究機構	上席研究員 Visiting Senior Researcher
その他の学外者	大倉 和子	明治国際医療大学	講師
	上田 嘉一	一般社団法人メリーアティック代 表	代表
	野池 雅人	プラスソーシャルインベストメント 代表	代表
	藤本 和希	(株)日産自動車	社員
	神崎 真実	追手門学院大学	講師
	坂田 陽子	金沢大学	教授
	上田 嘉一	一般社団法人メリーアティック代 表	代表
研究所構成員 計 232 名 (うち学内の若手研究者 計 103 名)			

Ⅲ. 研究業績（公開項目） ※ページ数の制限は無し ※to be published,の状態の業績は記載しないで下さい。

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください(2026 年 3 月 31 日時点)。
また、書式 B の研究業績欄との二重記載をお願いいたします。

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共 著の別	発行年月	発行所、発表雑誌（及び巻・ 号数）等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	村本 邦子	『戦争トラウマを語り合う』	分担執筆	2026 年 2 月	泉町書房	黒井 秋夫 (村本 邦子)	1
2	村本 邦子	『心理学からみるコロナ禍と 人のこころー新型コロナに 人々はどう向き合ったか』 (「第 10 章コロナ禍で浮かび 上がった倫理問題ー私たち 一人ひとりの責任」169-185 頁「インタビュー 2 市井の声に耳を傾ける ーワクチン接種に抗った 人々へのインタビューから」 216-230 頁)	分担執筆	2026 年 2 月	ミネルヴァ書房	青野, 秋本, 田口, 辻, 本田山(編著), 村本 邦子 (分担執筆)	1
3	村本 邦子	ジェンダーにセンシティブで ありたい心理臨床家のため	共著	2025 年 9 月	金剛出版	西井 開・向井 理菜 ほか	27-40

		に(「ジェンダーセンシティブ心理臨床を巡る2つの対話①フェミニズム、身体、土着」)					
4	柏木 智子	『「プラットフォームとしての学校」の実践—多職種・多機関連携のマネジメントと教員の役割』	共編者 (共編著者)	2025 年 6 月	晃洋書房	柏木 智子・後藤 武俊・片山 紀子・百合田 真樹人	(共編著) -248
5	岡部 茜, 御旅屋 達, 原 未来	若者支援政策の現在地：こども家庭庁／こども基本法は「若者」をどう位置づけたのか	共編著	2026 年 3 月	明石書店	南出 吉祥, 阿比留 久美, 斎藤 真緒, 永野 咲, 鈴木 綾	9-20 , 71-96 , 221-233
6	春日 彩花	老年臨床心理学ハンドブック(第9章 認知機能、知能、知恵)	共著	2025 年 7 月	福村出版	該当章の共同執筆者:増本 康平	PP. 126—139
7	松原 洋子	「優生思想に抗うために」	単著	2025 年 9 月	藤井 克徳, 池上 洋通, 石川 満, 井上 英夫編著『「もっと生きたかった」やまゆり園事件と人権』	藤井 克徳, 池上 洋通, 石川 満, 井上 英夫編著	PP. 326～334
8	松原 洋子	「〈不良な子孫〉の出生防止と人権侵害:優生保護法の歴史から」	単著	2025 年 5 月	『産む権利／産まない権利——リプロダクティブライツの現在』花伝社	ジェンダー法政策研究所, 辻村 みよ子, 糠塚 康江, 大山 礼子, 二宮 周平編著	PP. 196～210
9	森久 智江	新時代の刑事拘禁法・処遇法 石塚伸一先生・赤池一将先生古稀祝賀論文集	共著	2025 年 10 月	現代人文社刑事司法に関与した人に対する福祉的支援の本質的意義—更生保護法改正による更生緊急保護の拡大と充実によせて	森久 智江	500-521
10	森久 智江	第4次国際自己申告非行調査(ISRD4)研究報告書—日本調査の概要と基礎的分析—	その他	2025 年 10 月	ISRD-JAPAN 実行委員会	ISRD-JAPAN 実行委員会	1-252
11	森久 智江	司法福祉[全面改訂版]	分担執筆	2025 年 7 月	生活書院刑事司法と福祉	森久 智江	90-113
12	安田 裕子	隠岐でのフィールドワーク、歩み出し	単著	2026 年 3 月	質的研究と社会実装	安田 裕子	(3),1-15 頁
13	安田 裕子	TEM 体験型研修における設計要件の検討—参加院生の学びを深めたプロセスから(査読付)	単著	2025 年 6 月	日本教育工学会論文誌	張 曉紅・田中 文昭・浅瀬 万里子・安田 裕子・サトウタツヤ	49(2),289-302 頁
14	安田 裕子	出産の語りをいかに聴くか—より深く聴き、ケアにむすぶために(特集 出産の語りを聴く—6 人の女性による「私のお産」のストーリー)(査読付)	単著	2025 年 4 月	助産雑誌	安田 裕子	79(2),150-155 頁
15	武田 悠衣	法面接でひらく事実確認:「聴き方」の心理学	単著	2026 年 3 月	新曜社		160p
16	石田 賀奈子	発達障害の子が羽ばたくチカラ 気になる子どもの育ちかた	共著	2025 年 4 月	KADOKAWA	川崎 聡大, 神谷 哲司, 川上 康則, 三富貴子, 和田 一郎, 石田 賀奈子	PP.168-195
17	斎藤 真緒	子ども・若者ケアラーの社会学:ケアリング・ソサエティの創造	編著	2026 年 3 月	クリエイツかもがわ	河西 優、武石 卓也、松田 亮三、古谷 友亮、許 英端、張 瑜淳、竹田 明子、山村 和恵、亀山 裕樹	第1章
18	亀山 裕樹	ヤングケアラーと家族の貧困:ケアをしない選択肢を拓くために	単著	2026 年 3 月	法律文化社		
19	サトウタツヤ	学校での「居場所」と保健室の意義「デジタル保健室—学校からひろがるケアリング・ムーブメント」	単著	2026 年 3 月	紫洲書院		PP. 114～132～

20	Tatsuya Sato	Collected Papers II on Trajectory Equifinality Approach	単著	2026 年 3 月	Chitose Press		PP. 1～180
21	サトウタツヤ	「オートエスノグラフィー・マッピングー「私」からはじめる研究手法を知るための地図」	共編著	2025 年 9 月	新曜社	土元 哲平, 桂 悠介	PP. 1～209
22	サトウタツヤ	「心理調査の基礎 改訂版」	共編著	2025 年 9 月	有斐閣	鈴木 直人	PP. 1～187
23	樋口 穂乃佳	機能的アサーションとは	単著	2026 年 3 月	日本評論社, こころの科学 (246 号,18)	三田村 仰(編)	PP. 18-23
24	三田村 仰	アサーション: 協働と連携に活かすコミュニケーションの力. こころの科学, 246.	単著	2026 年 3 月	日本評論社, こころの科学 (246 号,18)	三田村 仰(編)	PP. 7-81
25	三田村 仰	カップルセラピーの教科書上: ふたりのキッチン編	単著	2025 年 8 月	日本評論社	なし	PP. 1～320
26	三田村 仰	カップルセラピーの教科書下: ブロッコリーの花言葉編	単著	2025 年 8 月	日本評論社	なし	PP. 1～320
27	大谷 いづみ	第 13 章 安楽死と尊厳死	単著	2026 年 3 月	金芳堂	伏木 信次・櫻則 章・霜田 求編『生命倫理と医療倫理 第 5 版』	PP. 149～158
28	川崎 聡大	『発達障害の子が羽ばたくチカラ 気になる子どもの育ちかた』	監修・著	2025 年 4 月	KADOKAWA	神谷 哲司・石田 賀奈子ほか	
29	美馬 達哉	『未来世界を哲学する3 越境と風土・伝統の哲学』	編者 (編著者)	2025 年 8 月	丸善出版,	岸見 太一, 北川 眞也, 伊藤 由希, 西川 亮	PP. 183-192
30	美馬 達哉	『変身』とケアの現場』	分担執筆	2026 年 3 月	松籟社	田中 壮泰, 西 成彦, 川島 隆	PP. 179-194

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	村本 邦子	死者と共同体ー東日本大震災後を生きる	単著	2026 年 3 月	東洋英和女子学院死生学年報 2026	村本 邦子	75-93	無
2	村本 邦子	周辺からの記憶 50 2023 年度シンポジウム 震災を語り継ぐーいのちのバトンを手渡すために	単著	2026 年 3 月	対人援助学マガジン 16(4)	村本 邦子	107-133	無
3	村本 邦子	集合記憶と集合トラウマ:周辺からの記憶ー被災と復興の証人となる	単著	2026 年 1 月	遠見書房 N:ナラティブとケア (17)	村本 邦子	80-85	無
4	村本 邦子	周辺からの記憶 49 2023 年 東日本・家族応援プロジェクト+	単著	2025 年 12 月	対人援助学マガジン 16(3)	村本 邦子	113-130	無
5	村本 邦子	周辺からの記憶 48 東日本・家族応援プロジェクト in ハワイ	単著	2025 年 9 月	対人援助学マガジン 16(2)	村本 邦子	124-135	無
6	村本 邦子	周辺からの記憶 47 2020 年度シンポジウム	単著	2025 年 6 月	対人援助学マガジン 16(1)	村本 邦子	112-136	無
7	柏木 智子	主体的・対話的で深い学びを引き出す授業と ICT 活用ーケアの態度の形成を促す効果に着目して	単著	2026 年 3 月	国立教育政策研究所国立教育政策研究所 令和 5-7 年度プロジェクト研究「「データ駆動型教育」の課題と実現可能性に関する調査研究」報告書	卯月 由佳・柏木 智子	171-192	無

8	柏木 智子	社会の分断に抗する学校の役割	単著	2026 年 2 月	日本教育会, 日本教育 (555)	柏木 智子	10-13	無
9	柏木 智子	社会の分断に抗する民主的社会の再生に向けた公教育の責任—公正とケアの視点から	単著	2025 年 11 月	日本教育行政学会年報 (51)	柏木 智子	4-23	無
10	柏木 智子	A case study of successful leadership by an elementary school principal in Japan.	共著	2025 年 9 月	Emerald Publishing Journal of Educational Administration, Advance online publication.	Yada, T., Kashiwagi, T., Nishino, M., Ono, M., Honjo, M., & Sato, H.	2 nd author	有
11	柏木 智子	探究学習を楽しむ方法～成果主義からの脱却～	単著	2025 年 6 月	東京書籍東書 E ネット	柏木 智子		無
12	柏木 智子	「探究学習」を楽しむ方法～課題の設定をどう考えるか～	単著	2025 年 5 月	東京書籍東書 E ネット	柏木 智子		無
13	柏木 智子	「探究学習」を楽しむ方法～なぜ探究が大事なのか～	単著	2025 年 4 月	東京書籍東書 E ネット	柏木 智子		無
14	柏木 智子	「ケアする学校」の理論と学び—公正で民主的な社会形成に向けて	単著	2025 年 4 月	青土社現代思想 (53-4)	柏木 智子	52-66	無
15	御旅屋 達	子ども・若者総合相談センターの組織構造と運営課題——自治体間の多様性と資源の制約に着目して	単著	2025 年 11 月	立命館産業社会論集 61(2)		51-64	無
16	春日 彩花	Effects of aging simulation suit interventions: Implicit and explicit ageism among university students	共著	2025 年 11 月	Taylor & Francis, Educational Gerontology	Kaisei Otani, Minori Hama, Chihiro Nakakita, Noriaki Tsuchida	1-11	有
17	春日 彩花	The Function of Leisure Activity Measure (FLAM): A Multidimensional Assessment Tool for Older Adults	共著	2025 年 8 月	Taylor & Francis, Leisure Sciences	Can Wang, Takeshi Nakagawa, Yukie Masui, Saori Yasumoto, Madoka Ogawa, Yuko Yoshida, Kei Kamide, Kazunori Ikebe, Takumi Hirata, Yasuyuki Gondo	PP . 88 ～ 99	有
18	増田 梨花	活動報告 2024 年度	単著	2026 年 3 月	立命館大学 心理・教育相談センター年報		24):51	無
19	増田 梨花	絵本を活用したピア・サポート —カナダにおける非認知能力を育む SEL 教育プログラムとピア・サポート	単著	2026 年 3 月	立命館大学 心理・教育相談センター年報		(24):27	有
20	増田 梨花	学生相談室の具体的情報を掲載したリーフレットが相談室イメージと援助要請意図に及	共著	2026 年 3 月	立命館大学 心理・教育相談センター年報	佐野 瑠似子 山本 博樹 亀井 隆幸	(24):19	有

		ぼす効果						
21	増田 梨花	絵本の世界に寄り道を 一色とりどりの記憶が紡ぐハートフルサポートー	単著	2026 年 3 月	立命館大学 心理・教育相談センター年報		(24):1	有
22	増田 梨花	対人援助従業者である発達がい当事者の就労継続要因の検討III インタビュー調査と定型発達者の文献比較による一考察ー	共著	2025 年 10 月	日本ピア・サポート学会第 23 回 研究大会・下関大会	安井 秀仁		有
23	増田 梨花	絵本を活用した高大連携におけるピア・サポートトレーニングの取り組み	共著	2025 年 10 月	日本ピア・サポート学会第 23 回 研究大会・下関大会	鄭 平陽	PP. 64	有
24	増田 梨花	肢体不自由児の心理リハビリテーション支援に対して保護者が展望を抱くまでの一考察	共著	2025 年 8 月	The journal of Child Health	山本 裕子		有
25	松原 洋子	「日本優生学史研究の先駆け:鈴木善次先生を偲ぶ」	単著	2026 年 3 月	日本科学史学会生物学史分科会、『生物学史研究』、第 106 号	なし	PP. 100 ～ 108	無
26	松原 洋子	「(不良子孫)の出生防止」と人権侵害:優生保護法の教訓	単著	2025 年 9 月	兵庫県人権啓発協会研究推進委員会、『研究紀要』、第 27 輯	なし	PP. 2～5	無
27	Yoko Matsubara	Confronting and archiving the eugenic past in Japan	共著	2025 年 6 月	Elsevier, The Lancet, Volume 406, Issue 10500	Aya Homei, Yuki Funatsu・Motoyuki, Goto	PP. 224 ～ 225	無
28	森久 智江	課題研究 刑事司法における「対話」はしがきー「対話」は何を変えうるのかー	単著	2025 年 10 月	現代人文社犯罪社会学研究 (50)	森久 智江	4-9	無
29	森久 智江	刑事施設職員による「内側」からの職場の再構築に向けて(拘禁刑時代の施設内処遇 8)	単著	2025 年 6 月	日本評論社法律時報 97(6)	森久 智江	100-105	無
30	LIU ZEYU	道徳基盤に基づく道徳判断がもたらす非人間化の過程——道徳アイデンティティの媒介的役割と二重過程アプローチによる検討——	共著	2025 年	法と心理, 早期公開中	若林 宏輔	-	有
31	廣田 貴也	日本版司法取引における意思決定——罪状況・罰の程度・有罪確率および親密性の影響——	共著	2025 年	心理学研究, 早期公開中	若林 宏輔	97.23046	有
32	松田 亮三	看護職員: 文脈をふまえた国際比較へ	単著	2026 年 1 月	非営利・協同総合研究所いのちとくらし、いのちとくらし研究所報 (93)		2-9	無
33	松田 亮三	拘禁刑時代の施設内処遇(13)刑事収容施設における医療: 拘禁刑下処遇における同等性	単著	2025 年 11 月	日本評論社, 法律時報 97(12)		128-133	無

		実現に向けた改革 への期待と懸念						
34	松田 亮三	候補性からみた医療アクセス分析 : その潜在的可能性	単著	2025 年 9 月	立命館大学産業社会学会,立命館産業社会論集 61(2)		83-92	無
35	松田 亮三	書評と紹介 小笠 原信実著『韓国に おける公的医療保 険と財政 : 医療の 公共性と社会保障 財源』	単著	2025 年 4 月	法政大学大原社会問題研究所, 大原 社会問題研 究所雑誌 (798)		56-60	無
36	小池 由佳	保育の利用システ ムにおける働きと ソーシャルワーク ～1997 年児童福祉 法改正に着目して ～	単著	2025 年 6 月	立命館大学産業社会論集 第 61 巻第 1 号		PP . 53 ～ 67	有
37	斎藤 真緒	ヤングケアラー支 援における若者の 位置	単著	2026 年 3 月	『若者支援政策の現在地——こども家庭庁／こども 基本法は「若者」をどう位置づけたのか』	岡部 茜・御旅 屋達・原 未来 編	PP . 121 – 146	無
38	斎藤 真緒	ヤングケアラー	単著	2025 年 8 月	『キーワードブック 特別支援教育』ぐりえいつかもが わ	黒田 学・清水 貞夫・平沼 博 将・三木 裕 和・向井 啓二 編	P. 28	無
39	Mitsuyuki Inaba	Stylometry can reveal artificial intelligence authorship, but humans struggle: A comparison of human and seven large language models in Japanese	共著	2025 年 10 月	PLOS ONE, 20(10)	Wataru Zaitsu, Mingzhe Jin, Shunichi Ishihara, Satoru Tsuge & Mitsuyuki Inaba	e0335369	有
40	稲葉 光行	『融合のアート～教 え、学び、繋げる混 合研究法』—第 10 回日本混合研究法 学会年次大会報告—	共著	2025 年 10 月	混合研究法, 4(2)	大河原 知嘉 子, 抱井 尚子	416-425	無
41	Mitsuyuki Inaba	Which parts of speech are more susceptible to topic variations: a case of Japanese authorship analysis	共著	2025 年 5 月	Behaviormetrika, 52	Wataru Zaitsu, Mingzhe Jin, Shunichi Ishihara, Satoru Tsuge	721-732	有
42	古野 公紀	行動分析的のアプ ローチに基づく個 人に最適化された 健康行動促進のた めのフィードバック 手法に関する基礎 的検討	共著	2026 年 3 月	対人援助学会、対人援助学研究、16 巻	高山 仁志・中 鹿 直樹他	PP . 13 ～ 26	有
43	Ayaka Kasuga	Effects of aging simulation suit interventions: Implicit and explicit ageism among university students	共著著	2025 年 11 月	Educational Gerontology, https://doi.org/10.1080/03601277.2025.2592807	Kaisei Otani, Minori Hama, Chihiro Nakakita, Noriaki Tsuchida	1-11	有
44	サトウタツ ヤ	帰ってきた心理学 の縦横無尽(3) 2025 年度前半期 の文化心理学ネッ トワーク、ちょっと だけその他	単著	2026 年 3 月	対人援助学会対人援助学マガジン 62 号		PP . 76 ～ 86	有

45	サトウタツ ヤ	TEA の知を生かした混合研究法の実践 ―質的研究法の発展と量・質の相補的理解を踏まえて―	単著	2025 年 12 月	日本混合研究法学会混合研究法 4 巻 2 号		PP. 512～ 525	有
46	サトウタツ ヤ	あるコスプレイヤーは何を目指して 13 年間コスプレを続けてきたのか―永久の未完成という発達過程を Auto-TEM で描く―	共著	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 TEA と質的探究 3 巻 1 号	福山 未智	PP. 1～22	有
47	岡本 尚子	外国にルーツを持つ児童の算数文章問題における困難性 ―視線計測データの分析を中心に―	単著	2026 年 3 月	立命館産業社会論集 61(4)		19-35	有
48	劉 丞	2 セッション文脈的カップルセラピー (CCT) の参加者における関係性の変容プロセス―半構造化インタビューを用いた質的研究―	共著	2025 年 10 月	家族心理学研究, 39 巻 1 号	劉 丞, 谷 千聖, 新舎 純子, 原田 梓, 三田村 仰	PP. 17～ 31	有
49	谷 千聖	交際中のパートナーからの応答性を実感し始めるプロセス: 親密さが高まらないケースを通して	共著	2025 年 8 月	対人援助学研究, 16	谷 千聖, 原田 梓, 三田村 仰	PP. 24～38	有
50	大谷 いづみ	日韓ユニバーサルツーリズムにおける移動困難者とサポーターによる実践報	共著	2025 年 8 月	立命館大学生存学研究, 立命館生存学研究, vol.9	安田 智博・ユジンギョン・高雅郁	PP. 79～85	無
51	川端 美季	生命倫理学と障害者差別の解消	共著	2025 年 9 月	生命倫理、35(9)	美馬 達哉	pp. 4～12	無
52	Yi SUN	Grandparental Involvement and Young Children's Social-emotional Adaptation: A Longitudinal Study in China.	共著	2025 年 7 月	Asian Social Science; Vol. 21, No. 4;	Lu Jiang, Xuji Sun		有
53	矢藤 優子	茨木市こども育成部子育て支援課「大会準備委員会企画①シンポジウム「学官連携による科学的根拠に基づく子育て支援―大阪府茨木市を拠点とした発達研究『いばらきコホート』とアジア諸国への展開―」	共著	2026 年 3 月	日本子育て学会, 子育て研究, 第 16 巻	孫 怡, 木村 駿斗	p39-40.	無
54	井上 順・ 宇都宮 博	TEMを用いた結婚観の形成と結婚に至るプロセスの検討―情緒的領域と道具的領域の語りに着目して―	共著	2025 年 10 月	家族心理学研究, 39 巻 1 号	—	PP. 32～ 47	有

55	宇都宮 博	岐路に立つ夫婦・カップルへの支援	共著	2025 年 5 月	家族療法研究, 42 巻 1 号	平山 史朗・野末 武義・直原 康光・小笠原 知子・福丸 由佳	PP . 40 ~ 49	無
56	Hayashi, Y.	Scripted Interventions versus Reciprocal Teaching in Collaborative Learning	共著	2025 年 10 月	Learning and Instruction	Shimojo, S. Kawamura, T.	13	有
57	Kohei Kakuta & Akihiro Kawasaki	Executive function in preschool children who stutter: a behavioral assessment study	共著	2025 年 4 月	Scientific Reports, 15, Article number: 16159. DOI: 10.1038/s41598-025-00981-9		Article 16159	有
58	川崎 聡大	ことばの発達のつまずきの見立てと支援	単著	2025 年 4 月	『LD, ADHD & ASD』23 巻 2 号		28-31	招待
59	Yuki Takanaga, Hinata Miyauchi, Yuta Kataoka, Fumihisa Shibata, Asako Kimura	Pen Meets Desk: Above-surface Drawing with Encountered-type Haptics Using an Extendable Pen	共著	2026 年 1 月	Journal of Information Processing, Information Processing Society of Japan, Vol. 34	Fumihiko Nakamura, Shohei Mori	pp. 29-38	有
60	Satoshi Hashiguchi, Yuta Kataoka, Asako Kimura	Perceived Weight of Mediated Reality Sticks	共著	2025 年 12 月	IEEE Transactions on Visualization and Computer Graphics (TVCG), IEEE press, Vol. 31, no. 1	Shohei Mori	pp.10573-10582	有
61	黒瀬 佳那, 坂口 達哉, 橋口 哲志, 柴田 史久, 木村 朝子	VR/MR 空間におけるフットジェスチャを用いた 3D インタラクション手法の分析・考察	共著	2025 年 11 月	ヒューマンインタフェース学会論文誌, ヒューマンインタフェース学会, 27 巻, 4 号	樋口 雄大	pp. 301-312	有
62	美馬 達哉	表象された犠牲者・加害者・障害者——『月』をよむ／みる——	単著	2026 年 3 月	早稲田大学国際文学館ジャーナル 4		PP. 94-102	無
63	美馬 達哉	生命のはじまりから考える科学・倫理・社会	共著	2026 年 2 月	青土社、現代思想 54(2)	阿久津 英憲	PP. 8-20	無
64	Tatsuya Mima	Peripheral nerve stimulation synchronized with brain stimulation facilitates somatosensory function.	共著	2026 年 2 月	Clinical Neurophysiology184	Yuki Maruyama, Sumiya Shibata, Sho Kojima, Hideaki Onishi	2111693	有
65	美馬 達哉	個別化精密医療という未来：臨床労働(clinical labor)を考える	単著	2026 年 1 月	青土社、現代思想 54(1)		PP. 18-27	無
66	Tatsuya Mima	Am I locked-in? Illness Trajectories, Medical Terminology, and the Experience of the Locked-in State in Japan	共著	2025 年 11 月	Neuroethics18	Himeno, Y., Masana, L., Vidal, F.	49	有

67	美馬 達哉	書評 フィリップ・アルディエール編『耐え難いもの（監獄情報グループ資料集 1）』人文書院	単著	2025 年 11 月	週刊読書人			無
68	美馬 達哉	生命倫理学と障害者差別の解消：配慮と対話の交錯	共著	2025 年 9 月	生命倫理 / 日本生命倫理学会編集委員会 編 35(1)	川端 美季	PP. 4-12	無
69	美馬 達哉	医療社会学とフォーコー、そして精神医学批判	単著	2025 年 8 月	立命館大学生存学研究センター9		PP. 11-15	無
70	Tatsuya Mima	Triple Transcranial Static Magnetic Field Stimulation System (“SHIN jiba”) Modulates the Neural Activity of the Lumbar Spinal Cord: A Cross-over and Single-Blind Study in Healthy Subjects	共著	2025 年 5 月	Neuromodulation: Technology at the Neural Interface	Hoshi, H., Shibata, S., Onishi, H.		有
71	美馬 達哉	経頭蓋静磁場刺激 (tSMS)による神経調節のメカニズム：ホールセルパッチクランプ法を用いた大脳皮質錐体細胞の解析	共著	2025 年 4 月	医学書院、BRAIN and NERVE 77(4)	芝田 純也, 福田 敦夫,	PP . 357-362	無
72	Tatsuya Mima	A pilot study on simultaneous stimulation of the primary motor cortex and supplementary motor area using gait-synchronized rhythmic brain stimulation to improve gait variability in post-stroke hemiparetic patients.	共著	2025 年 9 月	Frontiers in human neuroscience19	Kazuma Yamashita, Ruido Ida, Satoko Koganemaru, Mitsuya Horiba, Ippei Nojima, Yumie Ono, Sumiya Shibata, Takuya Hosoe, Hiromasa Tachiwa, Hiroaki Yamashita, Akihiro Itoh, Yuuki Murata, Masataka Fujita, Kaoru Kamimoto, Yoshino Ueki	1618758	有
73	Tatsuya Mima,	Therapeutic Intervention for Trunk Control Impairments in Central Nervous System Disorders: A Comprehensive Review of Methods and Efficacy.	共著	2025 年	Progress in rehabilitation medicine10	Hiroaki Yamashita, Tatsuya Yamaoka, Ryota Shimomura, Sachimori Ichimura, Yuuki Murata, Akihiro Itoh, Satoko Koganemaru	20250002	有

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名

1	村本 邦子	Positionality as Boundary-Spanning Practice: From Clinical Work to “the Power of the Land”	2026 年 2 月	International Exchange Event – Exploring Community Psychology –, ハイブリッド開催, 跡見学園女子大学文京キャンパス	Kuniko Muramoto
2	村本 邦子	援助?いえ、好奇心ですー釜ヶ崎のココローム/釜ヶ崎芸術大学の日々人生劇場	2025 年 10 月	対人援助学会第 17 回年次大会, 大阪キリスト教短期大学, 大阪市	上田 假奈代、山口 洋典、村本 邦子
3	村本 邦子	戦争・被爆・災害の記憶を架橋するー集合的トラウマに触れる、多様な実践とまなざし	2025 年 10 月	日本質の心理学会第 22 回大会, 広島大学東広島キャンパス	村本 邦子(指定討論)
4	村本 邦子	ABR で「土地の力」を描き出すー映像とその制作プロセスの探求ー	2025 年 10 月	日本質の心理学会第 22 回大会, 広島大学東広島キャンパス	村本 邦子・安斎 聡子・伊藤 哲司・小木 貢・河野 暁子・薛 海升
5	村本 邦子	科学者-実践家-擁護者モデルの形成:日本の臨床心理学の社会的役割とは何か? 臨床心理士とアドボカシー・トラウマ支援に関わるなかでー	2025 年 10 月	日本心理臨床学会第 44 回大会, 神戸コンベンションセンター	村本 邦子
6	村本 邦子	新型コロナワクチン被害をめぐってー社会に見えにくい隠蔽された被害への心理支援と課題その2コメント	2025 年 10 月	日本心理臨床学会第 44 回大会, 神戸コンベンションセンター	村本 邦子
7	村本 邦子	原子力災害とコミュニティー双葉のコミュニティはどうなったか	2025 年 9 月	日本コミュニティ心理学会第 28 回大会, 九州大学箱崎サテライト	村本 邦子
8	村本 邦子	土着的視点に基づく脱植民地主義心理学の可能性を拓くー東北からプエルトリコへー	2025 年 9 月	日本コミュニティ心理学会第 28 回大会, 九州大学箱崎サテライト	村本 邦子
9	村本 邦子	災厄を生き抜くコレクティブな「土地の力」ー脱植民主義化と知の協働的創造	2025 年 6 月	日本文化人類学会第 59 回研究大会, 筑波大学筑波キャンパス, 茨城県つくば市	村本 邦子
10	岡田 まり	スーパーバイザー研修のモデル開発ー試行研修の評価ー	2025 年 7 月	第 33 回日本社会福祉士学会、くにびきメッセ(島根県松江市)	片岡 靖子、潮谷 恵美、野村 豊子
11	Satoshi OTAYA	Reevaluating the Connection between High Schools and the Labor Market in Japan: Limits and Reorganization	2025 年 7 月	International Sociological Association 5th ISA Forum of Sociology, Rabat, Morocco	
12	増田 梨花	絵本を活用した高大連携におけるピア・サポートトレーニングの取り組み	2025 年 10 月	日本ピア・サポート学会 第 23 回研究大会・下関大会 ピア・サポートから拓かれる未来ー学びの多様性と相互に成長する場の構築ー DREAM SHIP 下関市生涯学習プラザ	鄭 平陽
13	増田 梨花	対人援助従業者である発達がい、当事者の就労継続要因の検討IIIーインタビュー調査と定型発達者の文献比較による一考察	2025 年 10 月	日本ピア・サポート学会 第 23 回研究大会・下関大会 ピア・サポートから拓かれる未来ー学びの多様性と相互に成長する場の構築 DREAM SHIP 下関市生涯学習プラザ	安井 秀仁
14	増田 梨花	絵本がひらくピア・サポートの可能性	2025 年 10 月	日本ピア・サポート学会 第 23 回研究大会・下関大会 ピア・サポートから拓かれる未来ー学びの多様性と相互に成長する場の構築ー DREAM SHIP 下関市生涯学習プラザ	企画者:武志 将、撫本 裕子 話題提供者:安井 秀仁、中野 修、山本 裕子、内田 一樹、鄭 平陽、撫本 裕子
15	増田 梨花	筋萎縮性側索硬化症患者・家族への支援を考えるーALS の緩和ケアー	2025 年 9 月	日本心理臨床学会 第 44 回大会 オンライン開催(オンデマンド形式), 神戸コンベンションセンター	松田 芳恵
16	増田 梨花	初心者の心理臨床家における継続要因のプロセスに関する一考察ー初回更新前の臨床心理士の語りを基にー	2025 年 9 月	日本心理臨床学会 第 44 回大会, 神戸コンベンションセンター	武志 将
17	増田 梨花	肢体不自由児者の心理リハビリテーションを目指した絵	2025 年 6 月	第 72 回小児保健協会学術集会 石川県金沢市	山本 裕子

		本と音楽の活用による支援の可能性の一考察			
18	松原 洋子	「倫理的・法的・社会的問題 (ELSI)としての強制不妊—日本の優生保護法史の検討」	2025 年 10 月	日本社会福祉学会第 73 回秋季大会 同志社大学今出川校地	なし
19	松原 洋子	『「不良な子孫」の出生防止と人権侵害——優生保護法の歴史から』	2026 年 3 月	日本精神衛生会 メンタルヘルスの集い (第 40 回日本精神保健会議)	なし
20	森久 智江	国連再犯防止準則策定と日本における再犯防止施策の評価	2026 年 3 月	刑事立法研究会, 明治学院大学	森久 智江
21	森久 智江	なぜ今刑事施設における職員の「対話」が必要なのか？ (日本司法福祉学会第 25 回全国大会分科会 2「刑事施設職員との『対話』を基盤とした研修の実践と展望」)	2025 年 9 月	日本司法福祉学会第 25 回全国大会, 龍谷大学	森久 智江
22	森久 智江	処遇か支援か？再犯防止か生活再建か？そして、誰のための？(日本司法福祉学会第 25 回全国大会シンポジウム「発達障害等を抱える触法行為のある方への更生支援の新たな展開」指定討論)	2025 年 9 月	日本司法福祉学会第 25 回全国大会, 龍谷大学	森久 智江
23	野田 実希	高齢化する糖尿病患者への心理的支援に関する研究—医療関係者の視点から見た課題とニーズ—	2025 年 9 月	日本心理臨床学会第 44 回大会, 神戸コンベンションセンター	野田 実希, 清重 英矩, 田中 史子
24	安田 裕子	安定型×不安型カップルの関係維持プロセスの分析—3 組の事例を通じた複線径路・等至性モデリングによる分析	2026 年 3 月	日本発達心理学会第 37 回大会(福岡国際会議場)	Yiyuan WANG・矢藤 優子・安田 裕子
25	安田 裕子	TEA のいろは—TEM の基本を学ぼう	2026 年 3 月	第 2 回タイ国日本語教育国際シンポジウム—Unlock Your Potential! 可能性を開花しよう(TPA29 (バンコク、スクンビット 29))	安田 裕子
26	安田 裕子	当該研究の TEA による分析手法についてのコンサルテーション	2026 年 1 月	慶應義塾大学看護医療学部地域看護学分野、慶應義塾大学信濃町キャンパス	
27	安田 裕子	隠岐でのフィールドワーク—ことはじめ	2025 年 11 月	立命館大学ものづくり質的研究センター 第 29 回研究会(オンライン開催)	
28	安田 裕子	親からのガスライティングを経験し立ち直るプロセスへの探求—TEA を用いて	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会(広島大学東広島キャンパス)	単独共同区分:共同 KONG MINGXI・安田 裕子
29	安田 裕子	日本国内企業で長期就業するムスリムの葛藤—複線径路等至性アプローチ (TEA) による分析	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会(広島大学東広島キャンパス)	単独共同区分:共同 小山 多三代・安田 裕子
30	安田 裕子	文化の中で揺れる〈私〉—ヤーン・ヴァルシナーの文化心理学に基づく「矛盾」の質的探究	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会(広島大学東広島キャンパス)	番田 清美・市川 章子・宮下 太陽・土元 哲平・安田 裕子
31	安田 裕子	ベルクソンの時間論と TEA—分岐点に焦点をあてた理論的展開	2025 年 10 月	日本質的心理学会第 22 回大会(広島大学東広島キャンパス)	単独共同区分:共同 宮下 太陽・安田 裕子・平井 靖史
32	安田 裕子	シンポジウム 4: 子どものいないカップルへの対応(不妊治療をやめる選択とその次に見えてくること)	2025 年 10 月	第 28 回日本 IVF 学会学術集会(ホテルコレクティブ(那覇市))	くどう みやこ・小泉 智恵・安田 裕子・阿部 正子・徳永 義光
33	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会 (東北学院大学五橋キャンパス(オンデ	単独共同区分:共同 サトウタツヤ・安田 裕子

		Equifinality Approach: TEA) —応用編		マンド))	
34	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —基礎編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会 (東北学院大学五橋キャンパス)	単独共同区分:共同 安田 裕子・サトウタツヤ
35	安田 裕子	複線径路等至性アプローチ の理論的枠組みと分析手法	2025 年 8 月	慶應義塾大学看護医療学部地域看護学 分野,慶應義塾大学信濃町キャンパス	
36	安田 裕子	研究方法を学ぶ 複線径路 等至性アプローチ(講演会) と研究交流会	2025 年 8 月	沖縄県立看護大学研修会, 沖縄県立看護大学	
37	安田 裕子	The Process of Maintaining Romantic Relationships in Avoidant × Avoidant Attachment Pairings: Analysis Based on Trajectory Equifinality Modeling (TEM)	2025 年 8 月	the 79th Annual Conference of the Korean Psychological Association (KPA)(Kintex Exhibition Hall 2, Goyang-si Gyeonggi-do)	単独共同区分:共同 Wang, Y. , Yato, Y. , & Yasuda Y.
38	安田 裕子	From unintended consequences to strategic adaptation:A TEM analysis of Honda's U.S. market entry	2025 年 7 月	41st EGOS(European Group for Organizational Studies) Colloquium (Alba Graduate Business School, The American College of Greece, Athens)	単独共同区分:共同 Kosuge, R. , Inamizu, N. , & Yasuda Y.
39	安田 裕子	講習会 TEA のいろは —TEM の基礎を学ぼう	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャン パス)	単独共同区分:単独 安田 裕子
40	安田 裕子	招待講演 TEA を用いた教 育臨床における葛藤の可視 化	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャン パス(対面&オンライン))	単独共同区分:共同 川上 康則・三田地 真実・安田 裕子
41	安田 裕子	大規模言語モデルを活用し た複線径路等至性モデリン グのための図生成システム の開発	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャン パス)	単独共同区分:共同 ◎遠藤 純音, 長谷川 翔一, 中田 友貴, 杉山 滉平, 谷口 彰, 上川 多恵子, 安 田 裕子, 谷口 忠大
42	安田 裕子	大会実行委員企画シンポジ ウム キャリアと記号—非可 逆的時間の中で径路を描 く意味	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャン パス(対面&オンライン))	単独共同区分:共同 市川 章子・宮下 太陽・石田 百合子・小 山 多三代・榎木 史子・小澤 伊久美・ウ ォーカー 泉・安田 裕子
43	安田 裕子	外国人留学生の内的キャリ アとキャリア展望—自己分 析ワークを用いた文化心理 学的考察	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャン パス(対面&オンライン))	単独共同区分:単独 上川 多恵子(波多野 多恵子)・安田 裕 子・サトウタツヤ
44	安田 裕子	不安定な愛着スタイルを持 つ日本人の恋愛維持プロセ ス—複線径路・等至性モデ リング(TEM)による分析	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャン パス)	単独共同区分:共同 WANG Yiyuan・矢藤 優子・安田 裕子
45	安田 裕子	コメントセッション	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会 第 4 回大会(人間環境大学松山道後キャン パス(対面&オンライン))	単独共同区分:共同 安田 裕子
46	LIU, ZEYU	The Influence of Moral Foundation: Based Intuition and Dehumanization on Sentencing Decisions.	2025 年 12 月	14th East Asian Association of Psychology and Law Conference, Seoul, Korea.	Wakabayashi, K.
47	LIU ZEYU	死に対する意識と加害行為 者の非 人間化が量刑判断 に与える影響	2025 年 11 月	法と心理学会第 26 回大会, 南山大学, 名古屋市	若林 宏輔
48	Taguchi, Rin	The Effects of Interview Methods and the Use of Anatomical Dolls on Event Reporting:An Experimental Study with University Students.	2025 年 12 月	14th East Asian Association of Psychology and Law Conference, Korea.	Wakabayashi, K.
49	田口 琳	面接法とアナトミカルドール の有無が出来事の報告に 与える影響—大学生を対象 としたアナトミカルドールの 使用	2025 年 11 月	法と心理学会第 26 回大会, 南山大学, 名古屋市	武田 悠衣・若林 宏輔

50	Akino, Koki	Measuring the Effect of Forensic Interview Training: Using the Questionnaire “Cognitions and Emotions about Child Sexual Abuse (CECSA)”	2025 年 12 月	14th East Asian Association of Psychology and Law Conference, Korea.	Wakabayashi, K.
51	秋野 光城	尋問に代替される司法面接記録が証人の供述評価に与える影響—反対尋問の効果に着目して—	2025 年 11 月	法と心理学会第 26 回大会, 南山大学, 名古屋市	武田 悠衣・若林 宏輔
52	若林 宏輔	消費者法と心理学: 心理学者、消費者法と出会う? 企画シンポジウム「消費者法と心理学の現状と課題」	2025 年 11 月	法と心理学会第 26 回大会, 南山大学, 名古屋市	
53	若林 宏輔	体験の有無が五感情報の発言数に与える影響 司法面接的手法による聴取	2025 年 11 月	法と心理学会第 26 回大会, 南山大学, 名古屋市	正 菜々子 武田 悠衣
54	廣田 貴也	有罪判決後に生じる不利益情報の提示が日本版司法取引の意思決定に与える影響	2025 年 11 月	法と心理学会第 26 回大会, 南山大学, 名古屋市	若林 宏輔
55	Matsuda Ryoza	“From Normative Ideals to Policy Realities: Rethinking the Caring State”.	2026 年 3 月	Navigating Triple Transitions: Seminar Series 3, Seoul	Matsuda Ryoza
56	Matsuda Ryoza	Policy Responses to Child and Young Carers in Japan and South Korea: A Rapid Comparative Analysis	2025 年 12 月	“Social Policy Governance in East Asia—Balancing Growth, Demography, and Welfare” Workshop, Kyoto	Matsuda Ryoza
57	Matsuda Ryoza	Regulations, incentives, and persuasion: The multi-faceted policy development to restructure the healthcare delivery in Japan	2025 年 11 月	Trends and issues of social protection governance in East Asia, Taipei	
58	松田 亮三	家族主義的福祉政策におけるケアラー支援をめぐる課題——「京都市ケアラー支援条例」制定過程における当事者参画を事例として	2025 年 10 月	社会政策学会, 第 151 回(2025 年度秋季) 大会, 西宮市	斎藤 真緒
59	Matsuda Ryoza	The Politics of Hospital Sector Reform in Japan: Local Resistance and Policy Innovations	2025 年 7 月	The 28th World Congress of Political Science, Seoul	
60	Matsuda Ryoza	The ‘discovery’ of young carers: tracing the development of Japanese Policy responses	2025 年 7 月	The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP) Joint Annual Conference 2025, York	Saito Mao
61	Matsuda Ryoza	Carer support in familialistic care regime: controversies surrounding the legislation of supporting young carers in Japan.	2025 年 7 月	The Social Policy Association (SPA) and the East Asian Social Policy Research Network (EASP) Joint Annual Conference 2025, York	Saito Mao
62	岡田 まり	スーパーバイザー研修のモデル開発 ～試行研修の評価～	2025 年 7 月	第 33 回日本社会福祉士会全国大会・社会福祉士学会, 松江市	片岡 靖子、潮谷 恵美、野村 豊子
63	田中 秀典	児童養護施設におけるアフターケア部署の実践報告——児童養護施設 A の取り組みから	2025 年 11 月	日本子ども虐待防止学会 第 31 回学術集会ほっかいどう大会, 札幌コンベンションセンター, 北海道	高橋 甲
64	石田 賀奈子	意見表明等支援における実践と研究の連携 ～学術は社会的養護の実践に何を貢献しうるのか～	2025 年 11 月	日本子ども虐待防止学会 第 31 回学術集会ほっかいどう大会, 札幌コンベンションセンター, 北海道	和田 一郎、小林 哲生、中根 愛、山本 剛
65	稲葉 光行	生成型 AI による文体の模倣: 「なりすまし」の可能性について	2025 年 11 月	日本法科学技術学会誌第 31 回学術集会	アートホテル日暮里 ラングウッド

66	和田 千鶴	学生ジョブコーチによるポジティブなフィードバックが特別支援学校生徒の行動の拡大に与える影響	2025 年 10 月	対人援助学会 17 回年次大会, 大阪キリスト教短期大学, 大阪府	高山 仁志・中鹿 直樹
67	土田 菜穂	特別支援学校教員の褒める行動の拡大に向けた支援の検討 対象教員に対するポジティブ・フィードバックの効果に着目した予備的研究	2025 年 9 月	日本特殊教育学会 第 63 回大会, 茨城大学, 茨城県	中鹿 直樹
68	高坂 めぐみ	望む行動に対する強化が大学生の行動的 QOL と SNS 利用時間に及ぼす影響	2025 年 8 月	日本行動分析学会 第 43 回年次大会, AOSSA, 福井県	中鹿 直樹
69	岸本 祥歩	他者の利益が間違ったルールのルール性制御に与える影響	2025 年 8 月	日本行動分析学会 第 43 回年次大会, AOSSA, 福井県	中鹿 直樹
70	太田 光美	障害児通所支援を利用する神経発達症をもつ子どもに対する行動の拡大を援助する働きかけ	2025 年 8 月	日本行動分析学会 第 43 回年次大会, AOSSA, 福井県	中鹿 直樹
71	中北 千景	マインドワンダリングと認知的制御との関連	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会, 東北学院大学, 宮城県仙台市	春日 彩花, 濱 美乃里, 土田 宣明
72	土田 宣明	実行機能からみた高齢期の"弱み"と"強み"	2025 年 10 月	日本心理学会公開シンポジウム, 愛知淑徳大学, 愛知県	
73	大谷 海誠	高齢者疑似体験が大学生の高齢者イメージに与える影響	2025 年 10 月	対人援助学会第 17 回年次大会, 大阪キリスト教短期大学, 大阪府	濱 美乃里, 中北 千景, 春日 彩花, 土田 宣明
74	サウトツヤ	複線経路等至性アプローチの基礎	2026 年 3 月	愛知県立大学大学院特別講演, 愛知県	
75	サウトツヤ	血液型性格関連説による少数派に対する偏見や差別	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会, 東北学院大学 五橋キャンパス, 宮城県仙台市	辻 絢加, 中田 友貴
76	サウトツヤ	タイトル 複線経路等至性アプローチ (Trajectory Equifinality Approach: TEA) —基礎編	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会, 東北学院大学 五橋キャンパス, 宮城県仙台市	安田 裕子
77	サウトツヤ	TEA (複線経路等至性アプローチ) —オフィスにおける人生経路と課題解決を考えるために—	2025 年 9 月	第 26 回日本オフィス学会大会, 立命館大学いばらきキャンパス, 大阪府	
78	岡本 尚子	タブレットとノートへの手書きメモが一定期間後の復習にもたらす差異	2025 年 9 月	日本教育工学会 2025 年秋季全国大会 (第 47 回大会),ウイנקあいち, 名古屋市	吉岡 篤志, 神鳥 遼人, 椿 裕尊
79	三田村 仰	教育講演: 文脈的カップルセラピーではどのようにして関係性の再構築を図るか?: 行動システムアプローチと感情理論からの説明	2026 年 3 月	2025 年度 ACT-Japan 年次ミーティング, ホテル福島グリーンパレス, 福島県福島市	なし
80	礪田 光	カップル関係満足度とアタッチメントの関係における体験の回避の調整効果	2025 年 11 月	第 25 回 日本認知療法・認知行動療法学会, サンシャインシティ会議室, 東京都	礪田 光・谷 千聖・三田村 仰
81	樋口 穂乃佳	「カップル版機能的アサーション尺度」の作成および信頼性・妥当性の検討 (第 25 回 日本認知療法・認知行動療法学会)	2025 年 11 月	第 25 回 日本認知療法・認知行動療法学会, サンシャインシティ会議室, 東京都	樋口 穂乃佳・谷 千聖・三田村 仰
82	樋口 穂乃佳	文脈的カップルセラピーを通じたすれ違いの解消プロセス(2) —一組の子育て期の夫婦を対象として—	2025 年 8 月	日本認知・行動療法学会 第 51 回大会, 大阪国際会議場, 大阪市	樋口 穂乃佳・谷 千聖・三田村 仰
83	谷 千聖	文脈的カップルセラピーを通じたすれ違いの解消プロセス(1) —一組の単身赴任夫婦を対象として—	2025 年 8 月	日本認知・行動療法学会 第 51 回大会, 大阪国際会議場, 大阪市	谷 千聖・劉 丞・原田 梓・新舎 純子・三田村 仰

84	大谷 いづみ	障害当事者の医学研究参画はいつなる社会を目指すのか： 障害当事者の研究への参画(指定発言)	2026 年 3 月 7 日	第 11 回研究倫理を語る会、東京コンファレンスセンター・品川	座長:武藤 香織 報告:熊谷 晋一郎・植村 要・山田 悠平
85	大谷 いづみ	いのちのこ、生きることを問い続ける—生を支える対話	2026 年 2 月 22 日	特別公開対談、立命館大学朱雀キャンパス(ハイブリッド)	島 菌 進
86	大谷 いづみ	混迷の時代に生命倫理を教えるということ—生命倫理教育の現在地	2026 年 2 月 9 日	東京都高等学校「倫理」・「公共」研究会、第 3 回研究例会、東京都立白鷗高等学校附属中学校	
87	SHIN Jhuhyung, KAWABATA Miki	Toward Inclusive Game Environments: Theories and Practices of Accessibility (ポスター報告)	2025 年 10 月	2025 East Asia Disability Studies Forum (EDEF) 、Ritsumeikan University, OIC Campus	
88	OTANI Izumi,	Current State of Research on Ich klage an (I Accuse) in Japan (ポスター報告)	2025 年 10 月	2025 East Asia Disability Studies Forum (EDEF), Ritsumeikan University, OIC Campus	
89	大谷 いづみ	医学研究における「当事者参画」を歴史に再配置する	2025 年 9 月	障害学会第 22 回大会, 女子栄養大学坂戸キャンパス, 埼玉県	
90	矢藤 優子	茨木市こども育成部子育て支援課「学官連携による科学的根拠に基づく子育て支援—大阪府茨木市を拠点とした発達研究『いばらきコホート』とアジア諸国への展開—	2025 年 11 月	日本子育て学会, 日本子育て学会第 17 回大会, 同志社大学	孫 怡, 木村 駿斗,
91	YATO Yuko,	Development of a Model for Improving Childcare Environment and Psychosocial Support in Asian Countries with Declining Fertility	2025 年 10 月	ASIAN ACADEMY OF FAMILY THERAPY, ASIAN ACADEMY OF FAMILY THERAPY 10th Annual Conference, Okinawa	Ji Yuanhong, YATO Yuko, TAO Xinhua, TAN Joo-Siang, HSIEH Cheng-Ting, Ni Luh Indah Desira Swandi, SUN Yi, CHEN Tingting, TANG Shijia, WAN Ting
92	矢藤 優子	多文化における育児支援の現状および親子の well-being との関連—アジア諸国における国際比較調査	2025 年 9 月	日本健康心理学会第 38 回大会, 桜美林大学新宿キャンパス・東京都	木村 駿斗, Yeaji Hong, Sasilak Khayankij, Yi Sun, 加藤 道代, 大島 聖美
93	孫 怡	母親の食育意識と幼児の食事行動および育児ストレスとの関連	2025 年 11 月	日本子ども学会第 21 回学術集会, 秋田大学手形キャンパス	連 傑濤, 矢藤 優子
94	連 傑濤	親子かかわりにおける共同注意の形成過程:ELAN による時間的分析	2026 年 3 月	日本発達心理学会第 37 回大会, 福岡国際会議場, 福岡市	孫 怡, 矢藤 優子
95	連 傑濤	育児ストレスに対する親子気質タイプの比較分析—気質的な『適合の良さ』に着目—	2025 年 10 月	日本パーソナリティ心理学会第 34 回大会, 信州大学松本キャンパス	孫 怡, 矢藤 優子
96	木村 駿斗	コミュニとのインタラクションが子どもの応答性に与える影響	2026 年 3 月	日本発達心理学会第 37 回大会, 福岡国際会議場, 福岡市	吉川 雄一郎, 石黒 浩, 板倉 昭二
97	木村 駿斗	妊娠期から子育て期における母親の QOL の変容過程	2025 年 9 月	日本心理学会第 89 回大会, 東北学院大学五橋キャンパス・宮城県	孫 怡, 矢藤 優子
98	WANG Yiyuan	安定型×不安型カップルの関係維持プロセスの分析—3 組の事例を通した複線径路・等至性モデリングによる分析—	2026 年 3 月	日本発達心理学会第 37 回大会, 福岡国際会議場, 福岡市	矢藤 優子, 安田 裕子
99	WANG Yiyuan	The Process of Maintaining Romantic Relationships in Secure × Anxious Attachment Pairings: Analysis Based on Trajectory Equifinality Modeling (TEM)	2025 年 10 月	Transnational Meeting on TEA, Transnational Meeting on TEA 2025, Ritsumeikan University, OIC Campus, Osaka	Yuko Yato, Yuko Yasuda
100	WANG Yiyuan	The Process of Maintaining Romantic Relationships in	2025 年 8 月	The Korean Psychological Association (KPA), The 79th Annual Conference of	Yuko Yato, Yuko Yasuda

		Avoidant × Avoidant Attachment Pairings: Analysis Based on Trajectory Equifinality Modeling (TEM)		the Korean Psychological Association (KPA), Kintex Exhibition Hall 2, Goyang-si Gyeonggi-do・Thailand	
101	WANG Yiyuan	不安定な愛着スタイルを持つ日本人の恋愛維持プロセス—複線経路・等至性モデリング(TEM)による分析	2025 年 5 月	TEA と質的探究学会第 4 回大会, 人間環境大学松山道後キャンパス・愛媛県	矢藤 優子, 安田 裕子
102	宇都宮 博	成人期のアイデンティティ発達と主観的幸福感, 健康意識との関連	2026 年 3 月	日本発達心理学会第 37 回大会, 福岡国際会議場, 福岡市	宗田 直子・上手 由香
103	宇都宮 博	子どもをもたない成人女性における結婚生活に対するコミットメントとメンタルヘルス: 夫との関係性が不調な状況下で取り組む不妊治療に着目して	2026 年 2 月	第 23 回 日本生殖心理学会・学術集会, 都市センターホテル, 東京都	—
104	Zhang, M. & Utsunomiya, H.	The Hidden Cost of Parental Conflict: Mediating Role of Parentification in Over - Adaptation Among University Students	2025 年 8 月	10th Anniversary International Conference of IAFP, International Academy of Family Psychology, Sendai, Japan	—
105	大麻 紀真	Influence of agent's strategy on individual's cognition and decision making: Experimental investigation using ultimatum game	2025 年 11 月	Proceedings of the 13th International Conference on Human-Agent Interaction (HAI 2025), pp.222-228, Yokohama, Japan	Shimojo, S., Hayashi, Y.
106	大麻 紀真	エージェントとの最後通牒ゲームにおける認知行動モデル: 状態遷移確率を用いた検討	2025 年 9 月	日本認知科学会第 42 回大会発表論文集, pp.807-810, 東京	下條 志巖, 林 勇吾
107	大麻 紀真	エージェントの行動戦略が個人の主観的評価に与える影響: 最後通牒ゲームを用いた実験的検討	2025 年 6 月	電子情報通信学会技術研究報告, 125(46), pp.149-155, 沖縄	下條 志巖, 林 勇吾
108	下條 志巖	高齢者のための解決志向アプローチに基づく傾聴エージェント: 問題志向アプローチとの比較による実験的検討	2025 年 9 月	日本認知科学会第 42 回大会発表論文集, pp.714-717, 東京	王 凱, 木内 敬太, 林 勇吾
109	下條 志巖	高齢者施設の入居者を対象としたメタバース環境における解決志向アプローチ: ポジティブ・ネガティブ情動と自己開示に着目した事例研究	2025 年 6 月	電子情報通信学会技術研究報告, 125(46), pp.1-6, 沖縄	王 凱, 木内 敬太, 首藤 祐介, 林 勇吾
110	関川 雄大	教育用会話エージェントによる自己調整学習と協調的学習支援のシステムティックレビュー	2025 年 9 月	日本教育工学会第 47 回秋全国大会発表論文集, pp.649-650, 名古屋	林 勇吾
111	渡邊 咲花	スキーマの活性化に伴う感情喚起が単純反応時間課題の反応時間に与える影響: 瞳孔散大と反応時間に着目した検討	2025 年 9 月	日本認知科学会第 42 回大会発表論文集, pp.702-705, 東京	下條 志巖, 林 勇吾
112	渡邊 咲花	高齢者の認知症支援に向けたシステムティックレビュー: メタバース環境と認知モデル, 大規模言語モデルに焦点を当てた検討	2025 年 8 月	電子情報通信学会技術研究報告, 125(153), pp.51-56, 京都	下條 志巖, 林 勇吾
113	Akihiro KAWASAKI	Monitoring mental effort during reading: Pupil diameter reflects task-evoked autonomic modulation	2025 年 11 月	Neuroscience 2025	Tomohito OKUMURA

114	渡邊 知朗	自尊心感情向上のためのLLMを活用した嬉しい褒めのメッセージ作成支援システム	2026年3月	第128回コラボレーションとネットワークサービス研究会	安藤 雅行, 泉 朋子
115	渡邊 知朗	Are Strength-Related Episodes Provided by Others Useful for Improving Positive Emotions? – Toward the Design of a Computer-Based Self-Esteem Enhancement System –	2025年6月	the 27th International Conference on Human-Computer Interaction (HCI'25), LNCS 15786	安藤 雅行, 大津 耕陽, 泉 朋子
116	渡邊 知朗	褒め合いによる自尊心感情支援システムの構築に向けたエピソードの有効性の検証	2025年6月	第219回ヒューマンインタフェース学会研究会	安藤 雅行, 大津 耕陽, 泉 朋子
117	堀 丈太朗	対面雑談への復帰時に提示される会話要約の長さと直近情報割合が会話理解に及ぼす影響	2026年3月	第217回ヒューマンコンピュータインタラクション研究会	安藤 雅行, 泉 朋子
118	堀 丈太朗	Facilitating Smooth Rejoining in Face-to-Face Group Chats by Sharing Common Conversational Information after Temporary Absence,	2025年11月	The 31st International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing (Collabtech '25), LNCS 16204	安藤 雅行, 大津 耕陽, 泉 朋子
119	堀 丈太朗	グループ雑談における一時離脱後の共通認識形成による円滑な会話復帰支援	2025年6月	第213回ヒューマンコンピュータインタラクション研究会	安藤 雅行, 大津 耕陽, 泉 朋子
120	野本 晴登	How Memories of Encounters with Users of Tsundoku Books Contribute to Reading Motivation: An Experiment with Borrowed Library Books	2025年11月	The 31st International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing (Collabtech '25),	安藤 雅行, 大津 耕陽, 泉 朋子
121	Hayato Tanabe, Satoshi Hashiguchi, Yuta Kataoka, Asako Kimura	Experiencing weight illusion in AR extended displays: A Portable Community Demo	2026年3月	The 2026 IEEE Conference on Virtual Reality and 3D User Interfaces Abstracts and Workshops (IEEE VR 2026), Daegu • Korea	Shohei Mori
122	Hinata Miyauchi, Yuta Kataoka, Fumihisa Shibata, Asako Kimura	Demonstration of visuo-haptic redirection in above-surface drawing with an extendable pen	2026年3月	the 2026 IEEE Conference on Virtual Reality and 3D User Interfaces Abstracts and Workshops (IEEE VR 2026), Daegu • Korea (2026年3月)	Fumihiko Nakamura, Shohei Mori
123	Keigo Hattori, Satoshi Hashiguchi, Fumihisa Shibata, Asako Kimura	Pulling illusion induced by asymmetric vibration with visual motion cues	2026年3月	the 2026 IEEE Conference on Virtual Reality and 3D User Interfaces Abstracts and Workshops (IEEE VR 2026), Daegu • Korea	Takeshi Tanabe, Tomohiro Amemiya,
124	Yutaro Maeno, Izuru Watanabe, Mayu Konishi, Marie Morita, Satoshi Hashiguchi, Fumihisa Shibata, Asako Kimura	Wobbly! VR Windsurfing: Enhancing Motion Perception via Floor-Tilt Illusion	2026年3月	the augmented humans (AHs) international conference 2026, Okinawa • Japan	Jun Kariyazono, Yamato Shichijo, Daiki Nishii, Fumihiko Nakamura
125	Yuta Hirose, Yuta Kataoka, Fumihisa Shibata, Asako Kimura	Sitting Still, Climbing Stairs: A Seated Stair-Ascent Experience in Virtual Reality	2026年3月	the augmented humans (AHs) international conference 2026, Okinawa • Japan	

126	Yusuke Kitaura, Keigo Hattori, Yuta Kataoka, Fumihisa Shibata, Asako Kimura	Not all WIP are perceived equally: Different speed expectations in seated walk- in-place locomotion	2025 年 11 月	the 31st ACM Symposium on Virtual Reality Software and Technology (VRST 2025), Montreal・Canada	Fumihiko Nakamura, Shohei Mori
127	宮内 陽太, 片岡 佑太, 柴田 史久, 木村 朝子	先端伸縮型仮想物体接触 デバイス ExtickTouch への リダイレクション技術の適用	2026 年 3 月	インタラクション 2026, 東京・一橋講堂	中村 文彦, 森 尚平
128	服部 圭吾, 橋口 哲志, 柴田 史久, 木村 朝子	視覚刺激を用いた牽引力錯 覚の知覚変化を提示する VR システム	2026 年 3 月	インタラクション 2026, 東京・一橋講堂	田辺 健, 雨宮 智浩
129	前野 佑太郎, 森田 磨里絵, 橋口 哲志, 柴田 史久, 木村 朝子	視覚・聴覚・触覚刺激の統合 が VR 空間における身体 スケール知覚に及ぼす影響	2026 年 2 月	多感覚研究会, 第 16 回多感覚研究会, 京都・京都大学	
130	田辺 隼人, 橋口 哲志, 片岡 佑太, 柴田 史久, 木村 朝子	AR 拡張ディスプレイが重さ 知覚に与える影響—把持端 末の重量の効果—	2025 年 9 月	第 30 回日本バーチャルリアリティ学会大 会, 大阪・立命館大学	森 尚平
131	小島 夏美, 橋口 哲志, 柴田 史久, 木村 朝子	温度刺激の並び順が Hot- Cold Confusion に与える影 響の分析	2025 年 9 月	第 30 回日本バーチャルリアリティ学会大 会, 大阪・立命館大学	羽田野 将大
132	杉江 鎌, 橋口 哲志, 森田 磨里絵, 柴田 史久, 木村 朝子	VR 視覚刺激と歩行運動が 自己運動感覚に与える影響 の分析—ベクション誘発刺 激と背景構成の違いによる 影響の考察—	2025 年 9 月	第 30 回日本バーチャルリアリティ学会大 会, 大阪・立命館大学	近藤 翔太
133	前野 佑太郎, 渡邊 出琉, 小西 真結, 森田 磨里絵, 橋口 哲志, 中村 文彦, 柴田 史久, 木村 朝子	ぐらぐら！VR ウィンドサーフ イン:床傾斜錯覚によるウィ ンドサーフィン体験	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025, 石川・金沢工業大学	仮屋蘭 純, 近藤 孝宣, 西井 大樹, 中 村 文彦
134	廣末 裕太, 片岡 佑太, 柴田 史久, 木村 朝子	踏み込みによる入力に VR 空間での階段昇段感に与え る影響の分析	2025 年 9 月	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025, 石川・金沢工業大学	
135	Tatsuya Mima	COVID-19 and the border.” Sci-Tech Workshop	2026 年 2 月	Sci-Tech Workshop	
136	美馬 達哉	脳神経科学と社会:ニューロ ダイバーシティを例として	2026 年 2 月	2025 年度第 9 期 THE TEAM	
137	美馬 達哉	クローズドループ刺激によ る歩行機能の再建	2026 年 1 月	先駆的リハビリテーション実践支援セン ターFD 研修会、広島大学	
138	美馬 達哉	教育講演 29「静磁場によるヒ ト脳機能の変化—基礎から 臨床まで—」	2025 年 11 月	第 55 回日本臨床神経生理学会学術大 会、沖縄コンベンションセンター	
139	Tatsuya MIMA	Gait Reconstruction using Closed-loop tES	2025 年 11 月	XI International School for Scientists: Active and Passive Methods of Brain Research, HSE University, Moscow	
140	美馬 達哉	『生存学』ってなに？	2025 年 10 月	立命館大学土曜講座公開講演会「生き て存るを学ぶ:「生きること」を問い続ける 生存学研究所のこれまでとこれから」, 立命館大学	
141	Tatsuya Mima	Lecture on “Institute of Ars Vivendi—Overview” HK+ Institute of Integrated Medical	2025 年 9 月	Lecture at Kyung Hee University, Seoul, KOREA	

		Humanities			
142	美馬 達哉	『臨床と生政治』から尊厳へ	2025 年 9 月	尊厳学の確立 B05 班研究会, 立正大学品川キャンパス	
143	美馬 達哉	脳に対する静磁場刺激の神経ダイナミクス	2025 年 8 月	生理研研究会「インタラクションとレジリエンスの神経ダイナミクス」, 生理学研究所, 愛知県岡崎市	
144	美馬 達哉	新しい非侵襲的脳刺激法: 静磁場によるヒト脳機能のモジュレーション	2025 年 6 月	脳の可塑性の神経科学	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	絵本がひらくピア・サポートの可能性	DREAM SHIP 下関市生涯学習プラザ	2025 年 10 月	50 名	日本ピア・サポート学会 第 23 回研究大会・下関大会
2	優生学史研究と社会正義:強制不妊問題の補償をめぐって	キャンパスプラザ 京都	2026 年 1 月	70 名	科研費(基盤研究 S)「デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究」、日本科学史学会生物学史分科会、立命館大学生存学研究所
3	”行動”と”選択”から考える動物行動福祉	福井市 AOSSA	2025 年 8 月	約 50 名	日本行動分析学会 第 43 回年次大会にて
4	国際公開研究会「ゲームアクセシビリティの現在と未来」	衣笠キャンパス	2025 年 10 月	20 名	立命館大学生存学研究所共催、科研費(挑戦的萌芽)「シリアスゲームを用いたマルチモーダル・エスノグラフィの人類学的研究
5	インクルーシブな選挙と民主主義を考える——堀川諭『知的障害者と「わかりやすい選挙」』合評会	朱雀キャンパス	2026 年 3 月 15 日	5 名	立命館大学生存学研究所共催
6	Diversity of women's postpartum child care support and its impact on maternal and child well-being: an international comparative study in Asia	NICFD, Symposium at National Institute for Child and Family Development	2025 年 8 月	30	Mahidol University・Thailand
7	Music, Community, and Wellbeing 音楽、コミュニティ、ウェルビーイング	大阪茨木キャンパス	2025 年 6 月	15 名	State University of New York at Fredonia

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所等	研究期間
1	増田 梨花	AR 技術で動物を身近に動物を身近に —小児病棟での活用にきたい—	東京新聞 子育て欄	2026 年 3 月 4 日
2	増田 梨花	立命館大学院教授ら(イメージする力を)	北陸中日新聞	2026 年 1 月 25 日
3	増田 梨花	ピアノと太鼓日常を実感	北国新聞	2025 年 12 月 2 日
4	増田 梨花	音楽の力信じ日常へ	北国新聞	2025 年 12 月 1 日
5	増田 梨花	能登に心寄せる —金沢で立命館大校友会—	北国新聞	2025 年 11 月 30 日
6	増田 梨花	ポップス名曲絵本で再発見 —子どもの五感フル活用—	中日新聞	2025 年 10 月 29 日
7	増田 梨花	ぱちぱち絵本教室	金沢富樫教育プラザ, 金沢市	2026 年 1 月 24 日
8	増田 梨花	絵本と蓄音器のコラボレーション	金沢文化振興財団 金沢蓄音器館, 金沢市	2026 年 1 月 24 日
9	増田 梨花	ピクチャーブックヒーリング 絵本と音楽のコラボレーション	石ノ森萬画館, 宮城県石巻市	2025 年 12 月 21 日
10	増田 梨花	野々市市家庭教育サポーター養成講座 —絵本が育む子どもの心—	賑わいの里ののいち カミーノ, 石川県野々市市	2025 年 11 月 30 日
11	増田 梨花	立命館大学石川県校友会設立 75 周年記念 復興応援イベント 第 1 部「絵本と音楽のコラボレーション」	金沢ニューグランドパレスホテル, 金沢市	2025 年 11 月 29 日

12	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	白山交流館 D 部屋, 東京都文京区	2025 年 8 月 17 日
13	増田 梨花	SP 盤「絵本と童謡のコラボレーション」 ～夏のアルバムをひらいてみましょう～	金沢文化振興財団 金沢蓄音器館, 金沢市	2025 年 7 月 26 日
14	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	大原地域活動センター 洋室 B, 東京都文京区	2025 年 6 月 15 日
15	増田 梨花	SP 盤「絵本と童謡のコラボレーション」 ～夏のアルバムをひらいてみましょう～	金沢文化振興財団 金沢蓄音器館, 金沢市	2025 年 4 月 26 日
16	増田 梨花	ブロッサムセミナー イン東京	放課後等デイサービス KIWI, 東京都墨田区	2025 年 4 月 25 日
17	松原 洋子	「優生政策とリプロダクティブ・ジャスティス」	立命館土曜講座, 立命館大学衣笠キャンパス	2026 年 1 月 17 日
18	松原 洋子	「〈不良な子孫〉の出生防止と人権侵害—優生保護法の歴史から」	公益財団法人 人権教育啓発推進センター 人権に関する国家公務員研修会・旧優生保護法関連, 東京都港区	2025 年 10 月 3 日 -2025 年 12 月 26 日
19	森久 智江	刑事司法に関与した特別なニーズのある人の支援—オーストラリアビクトリア州(VIC)からの示唆	高齢者障がい者の刑事弁護はここまでやれる！ ～オーストラリアの取組に学ぶ・海外調査報告～, 日本弁護士連合会弁護士会館, 東京都千代田区	2026 年 3 月
20	森久 智江	被疑者等支援業務のあるべき姿—何のために支援するのか？	令和7年度厚生労働省社会福祉推進事業一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会近畿ブロック研修会, 大阪府地域生活定着支援センター, 新大阪丸ビル別館, 大阪市	2026 年 3 月
21	森久 智江	再犯防止政策の総合評価と処遇改革の具体策の検討を踏まえた実務者研修	新自由刑と無期受刑者処遇に関する総合的研究「日本型行刑における拘禁刑の社会化」最終報告会, 立正大学品川キャンパス, 東京都品川区	2026 年 2 月
22	森久 智江	えん罪被害を受けた人の生活再建—無罪になれば解決するのか？	立命館土曜講座, 立命館大学衣笠キャンパス	2026 年 2 月
23	森久 智江	効果的な援助に向けた支援体制や連携のあり方について	令和 7 年度大津少年鑑別所地域援助推進協議会, 大津地方検察庁, 大津市	2026 年 2 月
24	森久 智江	刑事司法の現状と 支援に携わる人に求められること	一般社団法人全国地域生活定着支援センター協議会令和7年度北海道・東北ブロック研修会(令和7年度岩手県地域生活定着支援研修会), いわて県民情報交流センターキョクシアアイーナ, 岩手県盛岡市	2026 年 2 月
25	森久 智江	罪を犯した人の社会復帰支援における刑事司法と福祉 の連携した取組～令和 7 年施行の「拘禁刑」創設をふまえて～	令和 7 年度 尼崎市地域共生社会セミナー, 小田南生涯学習プラザ, 尼崎市	2026 年 2 月
26	森久 智江	民間協力者による社会課題解決としての再犯防止の取組～つながるちから地域のちから	令和 7 年近畿ブロック再犯防止シンポジウムパネルディスカッション, 立命館大学朱雀キャンパス	2026 年 2 月
27	森久 智江	日本の刑事司法手続きの概要	立命館大学産業社会学部(鎮目真人ゼミ) 台湾・東呉大学学習交流, 立命館大学衣笠キャンパス	2025 年 12 月
28	森久 智江	修復的司法(Restorative Justice)は社会を変えうるか？	Prison Arts Connection オンライントーク	2025 年 12 月
29	森久 智江	矯正処遇のあり方と刑務所・刑務官の役割	近畿管内刑事施設視察委員交流会, 近畿弁護士連合会	2025 年 11 月
30	森久 智江	矯正施設を退所した障がいのある人の支援において求められること	社会福祉法人島根県社会福祉協議会「令和 7 年度刑余者支援事例検討会」西部会場, 島根県浜田市・島根あさひ社会復帰促進センタービジターセンター	2025 年 10 月
31	森久 智江	矯正施設を退所した障がいのある人の支援において求められること	社会福祉法人島根県社会福祉協議会「令和 7 年度刑余者支援事例検討会」東部会場, 島根県松江市・いきいきプラザ島根	2025 年 10 月
32	森久 智江	働き方と職場の変化にあなたはどうか向き合うのか？—拘禁刑時代の刑務所という職場と刑務官という仕事のあり方	美祢社会復帰促進センター職員対話型研修, 山口県美祢市・美祢社会復帰促進センター	2025 年 10 月
33	森久 智江	日本における修復的司法の現代的意義	講座「犯罪学」, 日本犯罪学会	2025 年 9 月
34	森久 智江	働き方と職場の変化にあなたはどうか向き合うのか？—拘禁刑時代の刑務所という職場と刑務官という仕事のあり方	美祢社会復帰促進センター職員対話型研修, 山口県美祢市・美祢社会復帰促進センター	2025 年 9 月
35	森久 智江	働き方と職場の変化にあなたはどうか向き合うのか？—拘禁刑時代の刑務所	長崎刑務所職員対話型研修, 長崎県諫早市・長崎刑務所	2025 年 8 月

		という職場と刑務官という仕事のあり方		
36	森久 智江	働き方と職場の変化にあなたはどうか？ー拘禁刑時代の刑務所という職場と刑務官という仕事のあり方	美祢社会復帰促進センター職員対話型研修, 山口県美祢市・美祢社会復帰促進センター	2025 年 7 月
37	森久 智江	第 20 回死刑囚の表現展トークイベント「ここが気になる！学生と法学部教授の対談」	死刑囚の表現展, 京都・スウィングキッチン Your, 京都市	2025 年 6 月
38	森久 智江	「他人」を生きてたら犯罪学に出会った件。	令和 7 年福岡県立修猷館高校卒業生キャリアセミナー	2025 年 5 月
39	柏木 智子	新年度を前に考える「揃わない前提」の学級と授業～これまでとこれからをつなぐ～	授業づくりネットワーク大阪集会, 学校法人立命館 ROOT, 大阪市	2026 年 3 月
40	柏木 智子	子どもの人権問題について考える	令和 7 年度第 3 回山城地方人権教育行政担当者等研究協議会, 京都府山城教育局	2026 年 1 月
41	柏木 智子	子どもたちのウェルビーイングを支える養護教諭の役割ー学校の福祉的役割に注目して:子どもの貧困と「ケアする学校」づくり	日本養護教諭教育学会第 33 回学術集会シンポジウム, 京都女子大学, 京都市東山区	2025 年 12 月
42	柏木 智子	子どもの人権と「ケアする学校」「ケアする地域」づくり	令和 7 年度香美町人権教育研究協議会, 兵庫県香美町	2025 年 12 月
43	柏木 智子	子どもの貧困と「ケアする学校」	金沢市教職員研修, 金沢市教育委員会, 金沢市	2025 年 11 月
44	柏木 智子	子どもの人権と「ケアする学校」「ケアする地域」づくり	日高ふれあいのつどい人権講演会, 豊岡市日高振興局地域振興課	2025 年 11 月
45	柏木 智子	子どもたちを取り巻く状況と地域社会の関わりについて	いちようカレッジ専科, 大阪市立総合生涯学習センター	2025 年 11 月
46	柏木 智子	子どもの貧困とケアする学校・地域づくりー事務職員の役割	令和 7 年度丹波地区小中特別支援学校事務研究協議会研究会	2025 年 11 月
47	柏木 智子	子どもの人権と「ケアする学校」「ケアする地域」づくり	宝塚市 じんけん講座, 宝塚市教育委員会	2025 年 10 月
48	柏木 智子	公正で民主的な社会と学校の役割	令和 7 年度沖縄県学校管理職マネジメント力強化推進事業全体研修, 沖縄県教育委員会	2025 年 10 月
49	柏木 智子	民主的で公正な社会の実現と公教育の責任ー学校と教員の役割	令和 7 年度京都府管理職研修	2025 年 6 月
50	柏木 智子	子どもの人権と「ケアする学校」「ケアする地域」づくり	令和 7 年度第 1 回 兵庫県市町人権啓発担当職員等研修	2025 年 5 月
51	石田 賀奈子	「施設内 FSW とは:家庭支援専門相談員の役割を考える」	大阪市児童福祉施設連盟 家庭支援専門相談員委員会	2026 年 2 月
52	石田 賀奈子	地域に求められるもの～「回復を目指した支援」のために～	守山学園シンポジウムシンポジウム「改正児童福祉法と連携実践の今」	2025 年 11 月
53	平岡 義博	佐賀県警科捜研の DNA 鑑定不正事件／平岡義博元科捜研主席研究員はどう見るか	刑事弁護オアシス	2025 年 9 月 29 日
54	中鹿 直樹	行動的 QOL 拡大を支援する対人援助	大学コンソーシアム京都「2025 年度京カレッジリカレント教育プログラム『対人援助の現代的課題 - 広がりやと深まりのなかで考える多職種連携』(京都市)	2025 年 9 月～12 月
55	中鹿 直樹	課題分析の理論	令和 7 年度 6 月期職場適応援助者養成研修(大阪会場)	2025 年 6 月
56	中鹿 直樹	対人援助学	令和 7 年度前期合同講習独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構障害者職業総合センター(千葉市)	2025 年 4 月
57	中鹿 直樹	課題分析の理論	令和 7 年度 4 月期職場適応援助者養成研修(大阪会場)	2025 年 4 月
58	高山 仁志	「イヌを満たす」ってなんですか ～どうぶつふくし、はじめのいっぽ～	犬とのより良い暮らしを考える共生セミナー, 北星学園大学(北海道札幌市)	2026 年 2 月
59	高山 仁志	“その日”の前に、できること ―ペットと避難と動物福祉―	令和 7 年度高知県ペットの災害対策に関する講演会(高知県主催)	2026 年 2 月
60	高山 仁志	動物福祉、はじめの一步 ～福祉と科学と行動と～	アニマルウェルフェアセミナー in 岡山市	2025 年 12 月
61	高山 仁志	飼育員向けの動物福祉と応用行動分析の講義	日本平動物園(静岡県)	2025 年 12 月
62	高山 仁志	動物のしあわせ、ヒトのしあわせ	天王寺動物園(大阪府)	2025 年 9 月

63	高山 仁志	飼い主さんに知ってほしい、イヌとの楽しい暮らしの話～しつけじゃなくて、暮らしの工夫～	福岡県愛護センター	2025 年
64	高山 仁志	アニマルトレーニングを深掘するー ヒトと動物の QOL 向上を目指してー	福岡ビジネスアカデミー	2025 年 5 月
65	岡本 尚子	ノートとタブレットへの筆記は記憶にどのような違いをもたらすのか	第 57 回繊維学会 紙パルプシンポジウム, 東京大学農学部, 東京	2023 年 9 月～現在
66	三田村 仰・谷 千聖	講師:「健康的で豊かな夫婦/カップル関係のためのヒント」 関西学院大学文学部 第 6 回心理学実践センター公開講座	主催:関西学院大学心理学実践センター	配信期間 2026 年 1 月 14 日(水)～3 月 22 日(日)
67	三田村 仰	Web コラム:パートナー達の親密な関係を支援するカップルセラピー	シンリンラボ 第 26 号(2025 年 5 月号) 特集 人間関係と若者のメンタルヘルス—親密な関係における課題と支援】#04 https://shinrinlab.com/feature026_04/	2025 年 5 月
68	矢藤 優子	子の調査における観察や面接のあり方について	家庭裁判所調査官自庁研修, 京都家庭裁判所	2026 年 2 月
69	矢藤 優子	地域で見守る子育て	東城陽アクティブネットワーク会議 安心・安全プロジェクト講演会, 城陽市 東部コミュニティセンター	2025 年 12 月
70	矢藤 優子	赤ちゃんの心理学—科学根拠に基づく子育て支援の取組み—	(公社)京都市私立幼稚園協会との共催 京都市子ども家庭支援課との合同研修, 京都市子育て支援総合センターこどもみらい館	2025 年 10 月
71	矢藤 優子	RITSUMEIKAN presents SOCIAL IMPACT ACADEMY	メディア報道	2025 年 5 月
72	矢藤 優子	関西ラジオトピックス「中でも外でもバタバタ！ なぜ子どもは“走りたがる”？ 走る子どもへの「NG 行為」も有識者が解説	ラジオ関西トピックス	2025 年 5 月
73	矢藤 優子	科学賦能社区嵌入式普惠育幼模式研讨会	杭州市西湖区白荡海未来社区	2025 年 5 月
74	Yuko Yato	Childcare, Careers, and the Future: Empowerment Practice in Asian Low-Birthrate Societies	Hangzhou Normal University, The 3rd International Conference on early child development and childcare, Hangzhou Normal University・China	2025 年 5 月
75	Yuko Yato	Round table meeting 3: Research on Infant and Child Care Policies /Breaking Barriers in Localizing Childcare Policies, Forging Government - Industry - Academic - Research Collaboration Mechanism	Hangzhou Normal University, The 3rd International Conference on early child development and childcare, Hangzhou Normal University・China	2025 年 5 月
76	木村 駿斗	子育て支援としてのオンデマンドセミナーの開発	ライスボールセミナー,立命館大学大阪いばらきキャンパス	2025 年 11 月
77	孫 怡	子どもを理解し,日本でよりよい親子関係を築くためにー日本で子育てしている中国人保護者向け	とよなか国際交流センター, 大阪府豊中市	2026 年 3 月
78	宇都宮 博	夫婦・親子関係の生涯発達心理学-実証研究の課題と展望(講師 ※神谷哲司氏と共同)	日本家族心理学会 2025 年度 第 3 回研修会	2025 年 9 月

6. 受賞学術賞					
No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
1	LIU ZEYU	法と心理学会	2025 年度法と心理学会若手研究奨励賞	死に対する意識と加害行為者の非人間化が量刑判断に与える影響	2025 年 11 月 9 日
2	秋野光城	法と心理学会	2025 年度法と心理学会若手研究奨励賞	主尋問に代替される司法面接記録が証人の供述評価に与える影響—反対尋問の効果に着目して—	2025 年 11 月 9 日
3	田口 琳	法と心理学会	2025 年度法と心理学会若手研究奨励賞	面接法とアナトミカルドールの有無が出来事の報告に与える影響—大学生を対象としたアナトミカルドールの使用	2025 年 11 月 9 日
4	孫 怡・連傑・矢藤	日本子ども学会	優秀発表賞	母親の食育意識と幼児の食事行動および育児ストレスとの関連	2025 年 11 月

	優子				
5	宇都宮 博	日本生殖心理学会	第 23 回 日本生殖心理学会・学術集会 優秀演題賞	子どもをもたない成人女性における結婚生活に対するコミットメントとメンタルヘルス:夫との関係性が不調な状況下で取り組む不妊治療に着目して	2026 年 2 月
6	堀 丈太朗	The 31st International Conference on Collaboration Technologies and Social Computing	Best Paper Award	Facilitating Smooth Rejoining in Face-to-Face Group Chats by Sharing Common Conversational Information after Temporary Absence	2025 年 11 月
7	木村 朝子	日本バーチャルリアリティ学会,	フェロー		2026 年 3 月
8	木村 朝子	情報処理学会	フェロー		2026 年 2 月
9	木村 朝子	情報処理学会	学会活動貢献賞		2026 年 1 月
10	廣末 裕太, 片岡 佑太, 柴田 史久, 木村 朝子	ヒューマンインタフェース学会	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025 優秀プレゼンテーション賞	「踏み込みによる入力 VR 空間での階段昇段感に与える影響の分析」	2025 年 9 月
11	飯屋 菫純, 前野 佑太朗, 渡邊 出琉, 小西 真結, 近藤 孝宣, 西井 大樹, 森田 磨里絵, 橋口 哲志, 中村 文彦, 柴田 史久, 木村 朝子	ヒューマンインタフェース学会	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025 優秀プレゼンテーション賞	「ぐらぐら！VR ウィンドサーフィン:床傾斜錯覚によるウィンドサーフィン体験」	2025 年 9 月
12	久保田 翔帆, 米澤 正真, 丹羽 一貴, 板垣 良摩, 森田 磨里絵, 柴田 史久, 木村 朝子	ヒューマンインタフェース学会	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025 優秀プレゼンテーション賞	「二者で協働してアバタを操作する融合身体体験」	2025 年 9 月

7. 科学研究費助成事業（科研費）						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	柏木 智子	非都市部等の不利な自治体における質の高い「学習・生活支援事業」の運営に関する研究	挑戦的研究(萌芽)	2025 年 6 月	2028 年 3 月	代表
2	柏木 智子	社会の分断に抗する学びの相互作用と教員の専門性に関する実証的研究ー公正に着目して	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
3	柏木 智子	公教育制度原理の再考と基礎教育保障に関する制度的実証的研究	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
4	柏木 智子	入学予定児・保護者に提供する学校情報ガイドラインの作成	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担
5	柏木 智子	外国にルーツを持つ子どものヘルスリテラシー向上を目指すシステム構築	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
6	柏木 智子	生活困窮世帯の生徒の学力保障のための学習支援事業運営に関する研究	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2025 年 3 月	代表
7	岡田 まり	ソーシャルマーケティングによるスーパービジョンの普及	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	代表
8	御旅屋 達	若者支援における総合相談窓口の設置・運用実態とその効果に関する研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2025 年 3 月	代表

9	春日 彩花	高齢者における行動制御の可塑性—DMC理論に基づいて—	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
10	春日 彩花	文化差を考慮した知恵評価指標の開発と国際比較	若手研究	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
11	松原 洋子	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	代表
12	松原 洋子	生命操作の倫理:生と死の自己決定をめぐる	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	分担
13	松原 洋子	ゲノム編集や iPS 細胞等の先端医療技術や尊厳死等の問題を尊厳の毀損の観点から分析	学術変革領域研究(A)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	分担
14	松原 洋子	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブ整備—PPIの実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
15	松原 洋子	医療・ヘルスケア領域における ELSI の歴史的分析和アーカイブ構築	JST-RISTEX	2022 年 10 月	2026 年 3 月	分担
16	森久 智江	反社会的行為があった知的障害者等の対人関係に着目したグッドウェイモデルによる支援	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	分担
17	森久 智江	特定少年制度に関する総合的研究:実態調査、国際比較、法・政策理論を踏まえて	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	分担
18	森久 智江	新自由刑と無期受刑者処遇に関する総合的研究:日本型行刑における拘禁刑の社会化	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2026 年 3 月	分担
19	森久 智江	「刑務所の中のソーシャルワーク」の実践・倫理・教育に関する実証的・比較法的研究	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
20	中根 成寿	障害福祉データベースを活用した障害者総合支援法給付額予測モデルの開発	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	代表
21	若林 宏輔	日本版司法取引制度の受諾要因の実験心理学的検討	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2027 年 3 月	代表
22	廣田 貴也	心理学的実験手法を用いた刑事免責制度に対する実証的検討	研究活動スタート支援	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表
23	松田 亮三	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
24	松田 亮三	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブ整備—PPIの実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
25	岡田 まり	ソーシャルマーケティングによるスノーピージョンの普及	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2029 年 3 月	代表
26	石田 賀奈子	ACEs(幼少期逆境体験)からの回復に寄与する意見表明等支援事業のあり方の検討	基盤研究(B)	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表
27	小池 由佳	児童福祉法改正と指導委託—子ども虐待予防支援システムのモデル構築—	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
28	石田 賀奈子	児童相談所の第三者評価の向上に関する研究	基盤研究(B)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
29	石田 賀奈子	生活困窮大学生に対する支援体制の構築に関する研究	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2026 年 3 月	分担
30	斎藤 真緒	ケアラー支援の課題と方向性—「みえないケア」のナラティブの可視化	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
31	土田 宣明	高齢者における行動制御の可塑性—DMC理論に基づいて—	基盤研究(C)	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
32	春日 彩花	文化差を考慮した知恵評価指標の開発と国際比較	若手研究	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
33	サトウタツヤ	イスラームへの改宗動機と過程—日本における日本人ムスリムを中心に	特別研究員奨励費	2025 年 10 月	2026 年 3 月	代表
34	岡本 尚子	視線計測手法を用いた熟達教師の「技」の可視化:教員養成での活用を目指して	基盤研究(B)	2021 年 4 月	2027 年 3 月	代表
35	谷 千聖	文脈的カップルセラピーが応答性知覚に及ぼす効果の検証と介入手続きの精緻化	若手研究	2025 年 4 月	2029 年 3 月	代表
36	小國 龍治	感謝の向社会的機能の解明に向けた認知神経科学研究	若手研究	2024 年 4 月	2027 年 3 月	代表
37	三田村 仰	超短期カップルセラピーのプログラム開発	基盤研究(C)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
38	後藤 基行	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担

39	大谷 いづみ	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
40	シン・ジュヒョン	シリアスゲームを用いたマルチ モーダル・エスノグラフィの人類学的研究	挑戦的研究(萌芽)	2024 年 6 月	2027 年 3 月	代表
41	川端 美季	帝国日本植民地統治下の公衆浴場運動における清潔規範思想	挑戦的研究(萌芽)	2024 年 6 月	2027 年 3 月	代表
42	川端 美季	日豪の薬物依存治療と薬物政策に関する比較研究	国際共同研究加速基金(海外連携研究)	2023 年 9 月	2027 年 3 月	分担
43	川端 美季	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PPIの実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
44	川端 美季	パンデミックにおける人間と非人間:生政治と脱人間中心主義の視点から	学術変革領域研究(B)	2023 年 4 月	2026 年 3 月	分担
45	後藤 基行	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PPIの実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	代表
46	矢藤 優子	女性の産後育児支援の多様性及び母子の well-being への影響の日中韓比較研究	国際共同研究強化(B)	2020 年 10 月	2026 年 3 月	代表
47	宇都宮 博	成人初期におけるパートナーシップの形成過程と心理的適応の関連構造の解明	基盤研究(C)	2020 年 4 月	2026 年 3 月	代表
48	林 勇吾	Cognitive Tutor を導入した協調的学習環境の開発と協同問題解決スキルの日米比較	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(A))	2025 年 6 月	2028 年 3 月	代表
49	林 勇吾	学習者と AI が混在するハイブリッド協同学習環境における相互教授に関する総合的検討	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2028 年 3 月	代表
50	川崎 聡大	ニューロダイバーシティに基づく非認知能力の理解とその涵養に関する検討	基盤研究(C)	2025 年 4 月	2028 年 3 月	代表
51	岡本 直子	ウクレレセッションを用いた「ゆるやかな学生支援」モデルの構築	基盤研究(C)	2022 年 4 月	2028 年 3 月	代表
52	美馬 達哉	詐病を哲学する:医療における真理の体制とその構築	挑戦的研究(萌芽)	2025 年 6 月	2027 年 3 月	代表
53	美馬 達哉	デジタル・アーカイブを活用した総合的な優生政策史研究	基盤研究(S)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
54	美馬 達哉	傷／傷跡としての戦後日本―ポスト冷戦期における生政治と文学	挑戦的研究(萌芽)	2024 年 6 月	2027 年 3 月	分担
55	美馬 達哉	非侵襲ヒト静磁場刺激の創生	基盤研究(B)	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担
56	美馬 達哉	中枢―末梢チューニングによる感覚障害のオンシロセラピューティクス創出	挑戦的研究(萌芽)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	代表
57	美馬 達哉	「ヘルスケア政策史研究」領域創成の基盤構築とアーカイブズ整備－PPIの実践と共に	挑戦的研究(開拓)	2023 年 6 月	2026 年 3 月	分担
58	美馬 達哉	クローズドループ刺激による非侵襲的 Deep Brain リハビリテーションの創生	基盤研究(A)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	代表
59	美馬 達哉	神経筋メタ・ネットワーク構造に基づく歩行介入戦略の開発	基盤研究(B)	2023 年 4 月	2027 年 3 月	分担

8. 科研費を除くすべての外部資金（政府系、民間財団、民間企業との共同研究費等）						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	LIU ZEYU	死に対する意識と加害行為者の非人間化が量刑判断に与える影響	2025 年度法と心理学会 若手研究奨励賞	2025 年 10 月	2026 年 10 月	代表
2	秋野 光城	主尋問に代替される司法面接記録が証人の供述評価に与える影響―反対尋問の効果に着目して―	2025 年度法と心理学会 若手研究奨励賞	2025 年 10 月	2026 年 10 月	代表
3	田口 琳	面接法とアナトミカルドールの有無が出来事の報告に与える影響-大学生を対象としたアナトミカルドールの使用	2025 年度法と心理学会 若手研究奨励賞	2025 年 10 月	2026 年 10 月	代表
4	松田 亮三	ケアの葛藤によりそい、ケアラーの社会的孤立・孤独を予防する包括的支援システムの構築	JST-RISTEX 社会的孤立枠	2024 年 10 月	2028 年 3 月	チーム・リーダー
5	石田 賀奈子	エビデンスに基づく乳児院における支援の質の検討―社会福祉学と心理学の協働を通して―	三菱財団社会福祉事業・研究助成	2025 年 10 月	2026 年 9 月	代表
6	河村 太志朗	逆境の小児期体験(ACEs)を持つ若年母親の育児を支える社会ネットワークに関する研究	上野千鶴子基金	2025 年 9 月	2026 年 9 月	代表

7	斎藤 真緒	ケアの葛藤に寄り添い、ケアラーの社会的孤立・孤独を予防する包括的支援システムの構築	JST-RISTEX 社会的孤立枠	2024 年 10 月	2028 年 3 月	代表
8	サトウタツヤ	人文社会科学の復興知に基づく標葉地域の循環型共同教育の実践	福島イノベーション・コースト構想推進機構が実施する「大学等の『復興知』を活用した人材育成基盤構築事業」	2021 年 6 月	2026 年 3 月	代表
9	大谷 いづみ	当事者視点による生命倫理教育・医療倫理教育に関する研究	(公財)生存科学研究所研究助成	2023 年 4 月	2026 年 3 月	代表
10	矢藤 優子	かわり指標コーディング・分析	受託事業[民間]	2025 年 4 月	2026 年 3 月	分担
11	矢藤 優子	乳幼児の親子関係における発達心理学的な知見から専門的助言および分析支援など	受託事業[民間]	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表
12	矢藤 優子	ケアの葛藤によりそい、ケアラーの社会的孤立・孤独を予防する包括的支援システムの構築	受託研究[政府系]	2024 年 4 月	2028 年 3 月	分担
13	孫 怡	行動観察による食事場面の親子関わりと子どもの社会情緒発達	日本子ども学会榊原子ども学奨励賞(民間)	2025 年 11 月	2026 年 12 月	代表
14	林 勇吾	知識推定と協同解析を統合するクラウド型知的学習支援アーキテクチャの設計と実装	一般財団法人テレコム先端技術研究支援センター(SCAT)研究費助成	2026 年 4 月	2029 年 3 月	代表
15	泉 朋子	高齢者のデジタルコミュニケーションを促進するインタラクティブ音声入力支援技術の開発	公益財団法人大川情報通信基金研究助成	2026 年 3 月	2027 年 3 月	代表
16	泉 朋子	AI 支援による褒め合いコミュニケーションを通じたエッセンシャルワーカーの Well-being 向上	一般財団法人 篠原欣子記念財団(しのはら財団) 研究助成	2026 年 3 月	2027 年 3 月	代表
17	泉 朋子	高齢者のための対話的音声入力によるメッセージ作成支援システムの開発	公益財団法人カシオ科学振興財団研究助成	2025 年 12 月	2026 年 11 月	代表
18	泉 朋子	認知工学技術を応用した Wellbeing な生活を支援する情報システムに関する研究	共同研究費	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表
19	木村 朝子	HOT-COLD CONFUSION における温度提示位置と知覚分布の関係の分析	東芝デバイス&ストレージ・学術奨励制度	2025 年 4 月	2026 年 3 月	代表
20	美馬 達哉	多面的脳コネクトーム解析に基づくてんかん病態の解明と新規ネットワークモデュレーション法の開発-	脳神経科学統合プログラム(個別重点研究課題)	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
21	美馬 達哉	ウェアラブル在宅脳波計を用いた認知症感謝及びその予備軍における意識・認知変動の定量化法の研究開発-	JST 経済安全保障重要技術育成プログラム	2025 年 4 月	2030 年 3 月	分担
22	美馬 達哉	認知症克服に向けた脳のレジリエンスを支えるリザーバー機能とその増強法の開発研究-	ムーンショット型研究開発事業	2024 年 4 月	2030 年 3 月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
1	中村 文彦, 柴田 史久, 木村 朝子, 辻 龍之助, 柳澤 祥太	触覚提示機構及びその方法			特願 2025-126855			日本